授業科目	解剖学	担当教員	杉田　昭子		
対象年次・学期	1 年・後期	必修・選択区分	必修	単位数	
授業形態		授業回数	15 回	時間数	30 時間
授業目的	各器官の構造と機能を学ぶことにより、後で学ぶ病理学や歯科医学の臨床の基礎を築く。				
到達目標	正常な人体の肉眼的構造について習得し、その機能を述べることができる。				
テキスト・参考図書等	・最新歯科衛生士教本　「人体の構造と機能 1　解剖学・組織発生学・生理学」（医歯薬出版）				

評価方法・評価基準

評価方法	評価割合(%)	評価基準
試験	80	①定期試験 80% ②レポート 10% ③出席点 10%
レポート	10	
小テスト	0	
提出物	0	
その他	10	

履修上の留意事項

①教科書を中心に、スライド、プリント、模型などを用いて講義を行う。　②要点はすべて板書するので、ノートをとること。

履修主題・履修内容

回	履修主題	履修内容
1	解剖標本見学　（杉田）	札幌医科大学　解剖標本館見学
2	解剖学で学ぶこと、細胞（杉田）	解剖学の種類、人体の区部、解剖学用語、細胞の構造と機能
3	細胞と組織　（杉田）	細胞の一生、細胞分裂、上皮組織、支持組織、筋組織、神経組織
4	発生　（杉田）	減数分裂、受精と着床、胚葉の形成、胎児の成長と発育
5	骨格系　（杉田）	骨の構造、連結、発生、骨格の名称
6	筋系　（杉田）	筋の形状と分類、骨格筋の名称
7	消化器系①　（杉田）	消化器の構造、口腔、咽頭、食道、胃
8	消化器系②　（杉田）	小腸、大腸、肝臓、胆嚢、膵臓、腹膜
9	循環器系①　（杉田）	血管の構造、心臓、動脈系
10	循環器系②　（杉田）	静脈系、胎児の循環系、リンパ系
11	神経系　（杉田）	神経系の構成、中枢神経系、末梢神経系
12	呼吸器系　（杉田）	呼吸器の構成、咽頭、喉頭、肺、気管、気管支
13	感覚器系　（松田）	外皮、視覚器、平衡聴覚器、味覚器、嗅覚器
14	泌尿器系　（杉田）	腎臓、尿管、膀胱、尿道
15	内分泌／生殖　（杉田）	内分泌器官とホルモン、生殖器

授業科目	解剖学	担当教員 実務経験		
対象年次・学期	1 年・後期	担当教員 実務経験		
授業形態				
		担当教員 実務経験		
		担当教員 実務経験		
		担当教員 実務経験		
		担当教員 実務経験		
		担当教員 実務経験		
		担当教員 実務経験		
		担当教員 実務経験		
		担当教員 実務経験		
		担当教員 実務経験		
		担当教員 実務経験		

授業科目	歯科衛生士概論	担当教員	松本　崇嗣		
対象年次・学期	1 年・前期	必修・選択区分	必修	単位数	
授業形態		授業回数	8 回	時間数	16 時間
授業目的	歯科衛生士の法律的性格と業務内容を理解し、歯科衛生士の役割、必要な知識や技術などについて学ぶ。				
到達目標	歯科衛生士の業務内容及び法律で定められている歯科衛生士の位置付けを述べることができる。歯科医療の特異性、医療との関連を理解する。歯科衛生士の活躍場所、役割、その責任について述べることができる。職業人としての必要な考え方や心構えを身につけ、行動できる。				
テキスト・参考図書等	・最新歯科衛生士教本「歯科衛生学総論」（医歯薬出版）				

評価方法・評価基準	評価方法	評価割合(%)	評価基準
	試験	80	①定期試験 80% ②レポート評価 20%
	レポート	20	
	小テスト	0	
	提出物	0	
	その他	0	

履修上の留意事項	①教科書を中心に、スライド、プリントなどを用いて講義を行う。　②小テストの実施、レポート提出も行う。　③要点はすべて板書するので、ノートをとること。

履修主題・履修内容	回	履修主題	履修内容
	1	歯科衛生学とは　（今村）	歯科衛生と健康、歯科衛生活動の対象と領域
	2	歯科衛生の歴史　（今村）	歯科衛生の誕生と経緯、歯科衛生の背景と現状
	3	歯科衛生活躍のための理論(今村)	予防の概念、歯科衛生の考え方－科学的思考
	4	歯科衛生過程　（今村）	歯科衛生過程とは、活用の利点、歯科衛生過程の流れ
	5	歯科衛生士法と歯科衛生業務　(今村)	歯科衛生士の義務と役割、関係法規と安全管理
	6	歯科衛生士と医療倫理(今村)	歯科衛生と倫理、対象の自己決定権の尊重、インフォームドコンセント
	7	歯科衛生士の活動と組織(今村)	歯科衛生活動の現状と活動の場、歯科衛生士と組織
	8	海外における歯科衛生士(木村)	海外における歯科衛生士の現状、社会におけるニーズと今後

授業科目	歯科衛生士概論	担当教員 実務経験		
対象年次・学期	1 年・前期	担当教員 実務経験		
授業形態				
		担当教員 実務経験		
		担当教員 実務経験		
		担当教員 実務経験		
		担当教員 実務経験		
		担当教員 実務経験		
		担当教員 実務経験		
		担当教員 実務経験		
		担当教員 実務経験		
		担当教員 実務経験		

授業科目	表現基礎	担当教員	片野　弘一		
対象年次・学期	1 年・通年	必修・選択区分	必修	単位数	
授業形態		授業回数	30 回	時間数	60 時間
授業目的	社会人生活を支える基本的な理解力と判断力、そして自己実現に向けた表現力を身につける。				
到達目標	「表現する力」を学ぶことで、自分の行動の意味や考えを他者に説明できる。				
テキスト・参考図書等	漢字検定の参考書				

評価方法・評価基準	評価方法	評価割合(%)	評価基準
	試験	50	①定期試験 50% ②レポート点 30% ③出席点 20%
	レポート	30	
	小テスト	0	
	提出物	0	
	その他	20	

履修上の留意事項	①講義、示説、演習形式で行う。　②演習は 1 人、3〜6 人グループごとに話し合う　③忘れ物はしない。

履修主題・履修内容	回	履修主題	履修内容
	1	授業方針　・表現の基礎	2 人一組で、相手のことを取材して自己紹介風に口頭で発表。取材を通して得た様々な情報を取捨選択して、如何に的確に「相手」を表現できるか？を問う。
	2	原稿用紙の使い方　・要約の基礎	授業で使う原稿用紙の基本的な使い方。新聞記事の要約と、記事に対する見解をグループで原稿用紙にまとめ発表。
	3	漢字の使い方学習　・ニュース原稿の作成（伝わる文章）	事件事故の箇条書き的な情報から、ニュース原稿を仕上げる。 5W１H（＋2F）、そして短く的確に…という文章の基本を学ぶ。
	4	論文の要約（表現力の的確化）	新聞記事の要約から一段深化させ、「意図を持った文章」を要約。 文章を如何に効率よく、的確に仕上げるか…その訓練。
	5	感想文作成と相互評価（主旨の伝達）	短い小説などの感想文を作成。 それをグループ内で相互評価することで、的確な構成力を学ぶ。
	6	漢字の使い方学習　・歌詞に込められたドラマを文章化	歌詞の表現やイメージ的展開から、背景のドラマを読み取り文章化。 考えを文章化し伝える訓練。
	7	街中の意外な風景を文章化（構成力）	各グループで街を散策し、テーマに則した光景を見つけて描写。 日常的な風景の中から意味を見出し、それを論理的に考えてゆく訓練。
	8	漢字の使い方学習　・「意外な風景」の文章を発表、相互評価	各々の文章が思惑通り「伝わる」のか、発表を通して表現力を学ぶ。
	9	レジュメの作成（文章作成の基礎）	グループにテーマを与え、それをレジュメ風にまとめる。 その過程で、自分たちの考えの経路を整理
	10	漢字の使い方学習　・レジュメを文章化（思考の整理）	9 回目の授業で作成したレジュメに沿って文章を構成。 文章の作成に当たって、何がポイントとなるのか？把握
	11	社説など「意見」を把握する（理解力の取得）	文章が訴える意味を把握。 その文章に対する同意や反論を、グループで討論する。
	12	個人の文章力を育成	これまでグループ単位で文章をまとめてきたが この回は、テーマに対して個人が文章化。その力を問う。
	13	漢字の使い方学習　・情	前期の総括 PART1。情報を収集し整理してレジュメを作

		報の整理と展開	成。
	14	レジュメに基づく文章の作成、発表（論理的思考）	情報を取捨選択し、論理的に筋の通った文章を作成しグループ毎に発表。 さらに相互評価で熟成度を考察。
	15	前期のまとめ（総括）	新聞の特集記事をとりあげ、概要をまとめること、および意見を展開。 レジュメの方法論が活かされているか、また起承転結の構成となっているか？
	16	前期授業の総括	文章を書く基本は ①起承転結 ②5W1H（+2F）
	17	オーラル・プレゼンテーション①	教室に在る機材や写真、資料を駆使して「発表」を補完 一週目はテーマの選択、補完媒体の選択など
	18	オーラル・プレゼンテーション②	二週目は、計画案に基づくスタンバイ （文章の作成、補完資料を精査、発表方法など）。
	19	オーラル・プレゼンテーション③	三週目は「発表」。所謂「オーラル・プレゼンテーション」を質疑応答を交え展開。 授業のポイントは「表現の実践」
	20	街中に見る素朴な歴史を文章化（論理的な文章構成）	近隣を取材、テーマに沿った題材を持ち帰りグループで400 字程度の文章化。 日常的な風景に意味を見出し、それを論理的に考えてゆく訓練。
	21	漢字の使い方学習　　・前回作成の文章を発表（的確な表現）	相手に伝わる文章になっているのかどうか？発表から検証。 文章による伝達の実践的訓練。
	22	一足早い「流行語大賞」選出（文章の内容考察）	今年の流行語をピックアップ、その選出理由を文章化。 第三者に伝えるための「工夫した」文章を考える。
	23	発表「流行語大賞」（口頭での表現力）	前回作成した文章を（グループ毎に）発表。 相互評価によって、印象的な文章作りを学ぶ。
	24	論文へのアプローチ①	文字による表現の最高到達点である「論文」に触れる 第一週は、読み取るためのレジュメ化
	25	論文へのアプローチ②	レジュメの文章化。
	26	論文へのアプローチ③	前週に作成した文章をグループで相互発表および評価と推敲。論文を書く訓練は、「表現」の本質に触れる機会。
	27	漢字の使い方 総括	漢検三級、および四級程度の漢字力を学ぶ。
	28	2022 年大予想①（調査結果の文章への反映）	新聞記事やそれぞれの発想をベースに「大胆予想ベスト5」を提示。 表現と密接な関係にある「調査」の意味を印象付ける。
	29	2022 年大予想②（論理的な表現力の取得）	前週にまとめた「大予想」の結果を発表。 最終的に、口頭での表現力を試す。
	30	総括	新聞の特集記事に対し、概要をまとめ意見を展開。 レジュメが活かされているか？起承転結で構成されているか？

授業科目	表現基礎	担当教員 実務経験		
対象年次・学期	1 年・通年	担当教員 実務経験		
授業形態				
		担当教員 実務経験		
		担当教員 実務経験		
		担当教員 実務経験		
		担当教員 実務経験		
		担当教員 実務経験		
		担当教員 実務経験		
		担当教員 実務経験		
		担当教員 実務経験		
		担当教員 実務経験		

授業科目	衛生学・公衆衛生学	担当教員	南出　保		
対象年次・学期	1 年・前期	必修・選択区分	必修	単位数	
授業形態		授業回数	15 回	時間数	30 時間
授業目的	自分自身の健康や、社会人として、医療人として、家族および地域の人々の健康を守る意識の向上をはかり、人々の健康問題を解決するために必要な知識を習得し、そのための判断力と行動力を養う。				
到達目標	広い視野で健康に関わる社会の出来事（ニュース）に関心を持ち、生活習慣や予防の視点から健康や病気には多くの要因が関わることを説明できる。日常生活や予防の視点から、自分の健康に留意し、生活し、自己の健康を管理することができる。地域保健活動に参加していく上で必要な基礎知識を述べることができる。				
テキスト・参考図書等	・最新歯科衛生士教本「歯・口腔の健康と予防に関わる人間と社会の仕組み 1　保健生態学」（医歯薬出版）				

評価方法・評価基準	評価方法	評価割合(%)	評価基準
	試験	70	①定期試験 70% ②小テスト 30%
	レポート	0	
	小テスト	30	
	提出物	0	
	その他	0	

履修上の留意事項
①教本と板書を減らすために講義用プリントを用いる。　②授業終了前に、毎回小テストを行う。　③前回授業の復習を小テストの解答・解説とともに行う。 ④授業のテーマは広範囲で、内容は豊富である。すべてを覚える勉強ではなく、心で聴いて心で感じ、そして理解することに努めること。 ⑤勉強は自分がするもの、今するもの、復習は重要である。　⑥テストは、漢字で書くべき語句は漢字で書くこと。

履修主題・履修内容	回	履修主題	履修内容
	1	総論	衛生とは、歯科衛生とは、健康の概念、予防医学の概念
	2	人口	人口構造、少子化と高齢化、出生率、平均余命、平均寿命
	3	環境と健康(1)	環境と健康の概念、生活環境(空気、温熱環境、水など)
	4	環境と健康(2)	上水道と下水処理、廃棄物処理、環境保全
	5	疫学	疫学とは、疾病異常(健康障害)の発生要因、5W－1H
	6	感染症	感染と発病、感染の三大要因、感染予防とその対策
	7	食品と健康(1)	国民栄養の現状と問題点、健康づくりのための各種指導
	8	食品と健康(2)	機能性食品、食中毒、食品添加物、健康日本 21
	9	地域保健	地域保健とは、地域保健の組織、住民の生活、地域特性
	10	母子保健	母子保健の意義、母子の保健管理、母子保健対策
	11	学校保健	学校保健の意義および概要、学校保健の活動と組織
	12	成人・老人保健	成人・老人保健の現状の課題、成人保健と老人福祉対策
	13	産業保健	産業保健の概念、職業性疾病、産業保健管理、産業保健
	14	精神保健	心の健康と障害、ライフサイクルからみた精神保健
	15	復習とまとめ	補習、復習

授業科目	衛生学・公衆衛生学	担当教員 実務経験		
対象年次・学期	1 年・前期	担当教員 実務経験		
授業形態				
		担当教員 実務経験		
		担当教員 実務経験		
		担当教員 実務経験		
		担当教員 実務経験		
		担当教員 実務経験		
		担当教員 実務経験		
		担当教員 実務経験		
		担当教員 実務経験		
		担当教員 実務経験		
		担当教員 実務経験		

授業科目	接遇マナー	担当教員	髙野　文子		
対象年次・学期	1 年・前期	必修・選択区分	必修	単位数	
授業形態		授業回数	8 回	時間数	16 時間
授業目的	マナーの本質である人を尊び、敬い、感謝する心を育み,、社会人（医療人）としての基本を身に付ける。				
到達目標	マナーの本質を理解し信頼関係を築くことができる。医療従事者としての受け答えができる。医療従事者としての接遇・応対ができる。				
テキスト・参考図書等	・プリント配布				

評価方法・評価基準

評価方法	評価割合(%)	評価基準
試験	80	①実技試験 80% ②授業態度 20%
レポート	0	
小テスト	0	
提出物	0	
その他	20	

履修上の留意事項	①『挨拶』、『立ち居ふるまい』の反復練習を行う。　②講義と演習を組み合わせて行う。 ③授業に対する積極性と取り組み方を重視する。　④実習着を着ての授業も行う。

履修主題・履修内容

回	履修主題	履修内容
1	礼とは、マナーの本質	・なぜマナーが必要なのか　・「礼」の本質について　・挨拶の重要性 ・振り返りシートについて　<実　技>基本動作(1)/立位・立礼
2	美しい立ち居ふるまい(1)	・基本姿勢(美しい姿勢・心の姿勢)　・相手を敬う立ち居ふるまい(階段/廊下) ・物の授受　<実　技>基本動作(2)
3	信頼関係を築く<基本の心得>	・自分の立場を知る　・上座・下座・正中について　・場所の違いによる動作 <実　技>基本動作　復習
4	医療人としての身だしなみ	・医療従事者としての身だしなみ　・信頼される態度について ・信頼関係を高める表情　<ワーク>身だしなみチエック
5	医療従事者としての心得、自立の姿勢について	・医療従事者としての心得　・歯科衛生士としての在り方 ・自立の姿勢を構成する要素
6	医療コミュニケーションの重要性	・歯科衛生士に必要なコミュニケーション力　・コミュニケーションの本質とは ・承認することの大切さ　・信頼関係を高める傾聴力
7	医療人としての接遇・応対の基本	・医療接遇の目的　・医療における接遇の重要性　・相手を敬う態度・動作
8	総合演習	・現場の流れに沿って、歯科衛生士に必要な『挨拶』『立ち居ふるまい』『コミュニケーション』『身だしなみ』等の総合演習

授業科目	接遇マナー	担当教員 実務経験		
対象年次・学期	1 年・前期	担当教員 実務経験		
授業形態				
		担当教員 実務経験		
		担当教員 実務経験		
		担当教員 実務経験		
		担当教員 実務経験		
		担当教員 実務経験		
		担当教員 実務経験		
		担当教員 実務経験		
		担当教員 実務経験		
		担当教員 実務経験		
		担当教員 実務経験		

授業科目	薬理学	担当教員	吉村　善隆		
対象年次・学期	1 年・後期	必修・選択区分	必修	単位数	
授業形態		授業回数	15 回	時間数	30 時間
授業目的	薬理学、すなわち薬物と生体(からだ)の相互関係について理解する。				
到達目標	歯科臨床に用いられる薬物の取り扱いについて述べることができる。歯科診療内容と、それに関連する薬物の関係を述べることができる。患者が服用している可能性がある薬物について述べることができる。				
テキスト・参考図書等	・最新歯科衛生士教本「疾病の成り立ち及び回復過程の促進 3　薬理学」(医歯薬出版)				

評価方法・評価基準	評価方法	評価割合(%)	評価基準
	試験	80	①定期試験 80% ②毎回の確認(小)テスト 20%
	レポート	0	
	小テスト	20	
	提出物	0	
	その他	0	

履修上の留意事項	①教科書を中心に授業を行う。　②ノートをとること。　③授業の最後に学習確認テストを行う。　④忘れ物をしない。 ⑤理由のない遅刻・途中退室は認めない。

履修主題・履修内容	回	履修主題	履修内容
	1	薬理学総論 1	総論 1　1 章 薬物の作用　2 章 薬物動態(1)
	2	薬理学総論 2	総論 2　2 章 薬物動態(2)　3 章 薬物の適用方法(1)
	3	薬理学総論 3	総論 3　3 章 薬物の適用方法(2)　4 章 薬物の作用に影響を与える要因
	4	薬理学総論 4	総論 4　5 章 薬物の副作用、有害作用　6 章 医薬品を適用する際の注意　7 章 薬物の取り扱い(1)
	5	薬理学総論 5	総論 5　7 章 薬物の取り扱い(2)　8 章薬物と法律・薬品と医薬品
	6	ビタミンとホルモン　末梢神経系作用薬	各論　総論 6　1 章　ビタミンとホルモン　2 章 末梢神経系作用薬(1)
	7	中枢神経系作用薬	2 章 末梢神経系作用薬(2)　3 章　中枢神経作用薬
	8	循環器・腎・呼吸器・消化器系作用薬　血液作用薬	4 章　循環器系作用薬　5 章 腎臓に作用する薬　6 章 呼吸器系作用薬 7 章 消化器系作用薬　8 章 血液に作用する薬
	9	免疫系、抗悪性腫瘍薬、代謝性疾患治療薬	9 章 免疫と薬　10 章 抗悪性腫瘍薬　11 章代謝性疾患治療薬
	10	炎症と薬、痛みと薬	12 章　抗炎症薬　13 章 痛みと薬
	11	局所麻酔薬	14 章　局所麻酔薬
	12	抗感染薬	15 章　抗感染薬
	13	消毒薬	16 章 消毒薬
	14	う蝕予防薬	17 章　う蝕予防薬
	15	歯内療法薬、歯周疾患治療薬、顎・口腔粘膜疾患と薬、漢方薬	18 章　歯内療法薬　19 章 歯周疾患治療薬　20 章 顎・口腔粘膜疾患と薬 21 章 漢方薬

授業科目	薬理学	担当教員 実務経験		
対象年次・学期	1 年・後期	担当教員 実務経験		
授業形態				
		担当教員 実務経験		
		担当教員 実務経験		
		担当教員 実務経験		
		担当教員 実務経験		
		担当教員 実務経験		
		担当教員 実務経験		
		担当教員 実務経験		
		担当教員 実務経験		
		担当教員 実務経験		
		担当教員 実務経験		

授業科目	歯科理工学	担当教員	伊藤　彩		
対象年次・学期	1 年・前期	必修・選択区分	必修	単位数	
授業形態		授業回数	8 回	時間数	16 時間
授業目的	歯科材料の基本的性質、用途、取り扱いなどの基礎知識を科学的な視点をもって習得する。				
到達目標	歯科材料の名称及びその成分・利用目的を正確に理解し、習得する。材料を操作した時に生じる化学反応・物理的変化を述べることができる。歯科診療の場で歯科材料を正しく使用でき、また管理できる。各歯科材料の用途や目的、およびその性質についてわかりやすく述べることができる。歯科材料の使用法を学び、性質を述べることができる。				
テキスト・参考図書等	・最新歯科衛生士教本「歯科診療補助論」(医歯薬出版) ・最新歯科衛生士教本「歯科材料」(医歯薬出版)				

評価方法・評価基準	評価方法	評価割合(%)	評価基準
	試験	80	①定期試験 80% ②レポート 20%
	レポート	20	
	小テスト	0	
	提出物	0	
	その他	0	

履修上の留意事項	①基本的には予習及び復習ができるように、教本の内容に従って講義をする。　②授業時間内になるべく理解するように心がける。 ③授業の内容を反復理解し、教科書・ノートに戻ってはイメージトレーニングを行うこと。

履修主題・履修内容	回	履修主題	履修内容
	1	歯科材料の基礎知識	歯科材料の分類、所要性質、素材、歯科材料の基本的性質
	2	歯科材料の取り扱い 1	印象材
	3	歯科材料の取り扱い 2	模型用材料
	4	歯科材料の取り扱い 3	合着材および接着材
	5	歯科材料の取り扱い 4	成形歯冠修復材
	6	歯科材料の取り扱い 5	仮封材、歯肉圧排用薬剤、ワックス
	7	歯科材料の取り扱い 6	新しい歯科材料、他の歯科治療用材料
	8	歯科材料の取り扱い 7	補綴用材料、(人工歯、床用材料、鋳造、ろう付け、重合、研磨と研磨材)

授業科目	歯科理工学	担当教員 実務経験		
対象年次・学期	1 年・前期	担当教員 実務経験		
授業形態				
		担当教員 実務経験		
		担当教員 実務経験		
		担当教員 実務経験		
		担当教員 実務経験		
		担当教員 実務経験		
		担当教員 実務経験		
		担当教員 実務経験		
		担当教員 実務経験		
		担当教員 実務経験		
		担当教員 実務経験		

授業科目	化学	担当教員	山内　芳子		
対象年次・学期	1 年・前期	必修・選択区分	必修	単位数	
授業形態		授業回数	8 回	時間数	16 時間
授業目的	生化学、栄養学、薬理学などの学問を理解するために必要な基礎知識の習得				
到達目標	基本的用語、物質の構造や性質、塩基・酸化・還元などの化学的な計算を理解し、無機・有機化学の基本を説明できる。				
テキスト・参考図書等	・最新歯科衛生士教本「化学」(医歯薬出版)　　・プリント				

評価方法・評価基準

評価方法	評価割合(%)	評価基準
試験	90	①定期試験 90% ②レポート 10%
レポート	10	
小テスト	0	
提出物	0	
その他	0	

履修上の留意事項	①歯科衛生士に必要と思われる内容を中心に授業を行う。単元ごとに確認テストを行う。　②授業のボリュームが多いので復習をしっかりすること。　③板書した内容は、必ずノートに記載する。　④電卓を使用する。(携帯も可)

履修主題・履修内容

回	履修主題	履修内容
1	物質の構造	元素、分子量計算、周期表
2	粒子の結合	イオン結合、共有結合、金属結合
3	物質の状態	固体・液体・気体、コロイド
4	物質量と濃度	原子量、分子量、濃度計算
5	化学反応	酸・塩基、酸化還元反応、pH 計算
6	有機化学物	炭化水素の構造、官能基の種類
7	生体関連物質	糖類、脂質、タンパク質
8	まとめ	科目の総括

授業科目	化学	担当教員 実務経験		
対象年次・学期	1 年・前期	担当教員 実務経験		
授業形態				
		担当教員 実務経験		
		担当教員 実務経験		
		担当教員 実務経験		
		担当教員 実務経験		
		担当教員 実務経験		
		担当教員 実務経験		
		担当教員 実務経験		
		担当教員 実務経験		
		担当教員 実務経験		
		担当教員 実務経験		

授業科目	口腔保健管理	担当教員	藤澤　雅子		
対象年次・学期	1 年・後期	必修・選択区分	必修	単位数	
授業形態		授業回数	15 回	時間数	30 時間
授業目的	臨床の現場で個々の患者に適した口腔保健管理プログラムを作成し、実践できる能力を身につける。				
到達目標	臨床での齲蝕予防と歯周疾患予防の基礎知識を述べることができる。ライフステージごとの口腔保健管理計画の理論と実際を述べることができる。プロフェショナルケアとホームケアの違いを区別している。処置内容の業務記録を書くことができる。				
テキスト・参考図書等	・最新歯科衛生士教本「口腔保健管理」(医歯薬出版)　　・プリント				

評価方法・評価基準	評価方法	評価割合(%)	評価基準
	試験	80	①定期試験 80% ②レポート 10% ③取組姿勢・参加態度 10%
	レポート	10	
	小テスト	0	
	提出物	0	
	その他	10	

履修上の留意事項	①講義の中で基礎的知識を解説する。　②口腔清掃用具の種類と使い方を示説する。　③実際に業務記録を書いてみる。　④授業中はノートをとる。　⑤提出物の期限は守る。 ⑥積極的な態度で取り組むこと。　⑦学習内容のボリュームが多いので遅れないこと。

履修主題・履修内容	回	履修主題	履修内容
	1	口腔保健の意義	日常生活、食生活と口腔保健
	2	対象把握と予防管理法	う蝕予防、歯周疾患予防の臨床
	3	病態阻止のための継続管理 1	歯周疾患、補綴物装着後の継続管理
	4	病態阻止のための継続管理 2	歯科治療終了後の矯正歯科治療の継続管理
	5	口腔保健管理の実際	ライフステージごとの口腔保健管理
	6	口腔保健管理の場の理解	老人保健事業、介護保険と口腔保健管理
	7	口腔観察と記録	問診と口腔内診査
	8	ホームケアとプロフェショナルケア	機械的プラークコントロールと化学的プラークコントロール
	9	口腔清掃の術式と器材	口腔清掃方法の選択
	10	おもなブラッシング指導	幼児期、学童期、思春期、成人期のブラッシング指導
	11	特別な要因がある場合のブラッシング指導	歯列不正、歯肉退縮、知覚過敏などのブラッシング指導
	12	業務記録の種類と形式	業務記録の目的と意義
	13	学童期の指導	臨床の場における業務記録 1(演習)
	14	歯周疾患患者の継続管理指導	臨床の場における業務記録 2(演習)
	15	要介護高齢者の指導	訪問歯科保健指導の業務記録(演習)

授業科目	口腔保健管理	担当教員 実務経験		
対象年次・学期	1 年・後期	担当教員 実務経験		
授業形態				
		担当教員 実務経験		
		担当教員 実務経験		
		担当教員 実務経験		
		担当教員 実務経験		
		担当教員 実務経験		
		担当教員 実務経験		
		担当教員 実務経験		
		担当教員 実務経験		
		担当教員 実務経験		

授業科目	口腔衛生学	担当教員	杉田　昭子		
対象年次・学期	1 年・通年	必修・選択区分	必修	単位数	
授業形態		授業回数	30 回	時間数	60 時間
授業目的	口腔の健康を保持増進させる理論と方法を理解し、歯・口腔の疾病異常の予防法を習得する。また個人から集団を対象にした口腔保健管理の方法を習得する。				
到達目標	う蝕および歯周疾患を主とした口腔疾患の病因、病態予防法を述べることができる。また歯科保健活動の制度や法規について学び、各ライフステージに応じた口腔保健管理の重要性を述べることができる。				
テキスト・参考図書等	・最新歯科衛生士教本「歯・口腔の健康と予防に関わる人間と社会の仕組み 1　保健生態学」（医歯薬出版）				

評価方法・評価基準	評価方法	評価割合(%)	評価基準
	試験	80	①定期試験 80% ②レポート 20%
	レポート	20	
	小テスト	0	
	提出物	0	
	その他	0	

履修上の留意事項	①教科書を中心に、スライド、プリントを用いて講義を行う。 ②要点はすべて板書するので、ノートをとること。毎回、講義の最後に小テストを行う。

履修主題・履修内容	回	履修主題	履修内容
	1	口腔衛生学総論　（杉田）	口腔衛生学とは、歯・口腔の健康と予防、予防の水準、ポピュレーションストラテジー
	2	歯・口腔の構造　（杉田）	歯と歯周組織、口腔粘膜、顎関節、唾液腺
	3	歯・口腔の発生と成長（杉田）	歯の形成・萌出の時期、形成時の栄養とホルモン
	4	歯・口腔の機能　（杉田）	咀嚼、嚥下、味覚、発音・発声
	5	歯・口腔の付着物　（杉田）	ペリクル、歯垢、歯石、舌苔、色素沈着物
	6	口腔清掃 1　（杉田）	口腔清掃法、人工的清掃法、補助的清掃用具
	7	口腔清掃 2　（杉田）	歯磨剤、洗口剤の種類およびその組成
	8	歯科疾患の疫学　（杉田）	う蝕の疫学、歯周疾患の疫学、その他の疫学
	9	う蝕の予防 1　（杉田）	う蝕発生に関わる要因、う蝕活動性試験
	10	う蝕の予防 2　（杉田）	う蝕の発生要因に対する予防法
	11	フッ化物によるう蝕予防 1（杉田）	フッ素とは、フッ素の代謝、（急性・慢性）中毒
	12	フッ化物によるう蝕予防 2（杉田）	全身応用、局所応用（塗布、洗口、歯磨剤）
	13	歯周疾患の予防 1　（杉田）	歯周疾患の発症機序、リスクファクター、全身に与える影響
	14	歯周疾患の予防 2　（杉田）	歯周疾患の予防手段と処置
	15	その他の疾患・異常の予防（杉田）	不正咬合、顎関節症、口臭、口腔乾燥症
	16	地域保健・公衆衛生 1（藤澤）	地域社会と地域保健の概念、地域保健の組織
	17	地域保健・公衆衛生 2（藤澤）	地域保健の新しい概念、活動の進め方、健康づくり対策
	18	母子保健 1　（藤澤）	母子保健の目的および概要
	19	母子保健 2　（藤澤）	母子保健、小児保健
	20	母子保健 3　（藤澤）	歯・口腔について、母子保健の現状と今後

	21	学校保健１　（藤澤）	学校保健の意義と概要、活動と組織
	22	学校保健２　（藤澤）	学校歯科保健
	23	成人保健　　（藤澤）	成人保健の意義・現状・対策、成人期の歯科保健
	24	産業保健１　（藤澤）	産業保健の概念、職業性疾病
	25	産業保健２　（藤澤）	産業保健管理、産業保健活動
	26	老人(高齢者)保健１　（藤澤）	老化と健康、生活習慣病
	27	老人(高齢者)保健２　（藤澤）	高齢者の健康確保と口腔保健
	28	精神保健　（藤澤）	精神保健・医療・福祉、社会復帰対策
	29	災害時の歯科保健　（藤澤）	大規模災害時の保健医療対策、被災地での歯科保健活動
	30	国際保健　（藤澤）	健康問題における国際協力および戦略

授業科目	口腔衛生学	担当教員 実務経験		
対象年次・学期	1 年・通年	担当教員 実務経験		
授業形態				
		担当教員 実務経験		
		担当教員 実務経験		
		担当教員 実務経験		
		担当教員 実務経験		
		担当教員 実務経験		
		担当教員 実務経験		
		担当教員 実務経験		
		担当教員 実務経験		
		担当教員 実務経験		

<table>
<tr><td>授業科目</td><td colspan="2">臨地・臨床実習Ⅰ</td><td>担当教員</td><td colspan="3">松岡　円</td></tr>
<tr><td>対象年次・学期</td><td colspan="2">1 年・通年</td><td>必修・選択区分</td><td>必修</td><td>単位数</td><td></td></tr>
<tr><td>授業形態</td><td colspan="2"></td><td>授業回数</td><td>23 回</td><td>時間数</td><td>45 時間</td></tr>
<tr><td>授業目的</td><td colspan="6">歯科衛生士の業務の実際を理解するために、歯科診療室の見学を行う。また、保育園、高齢者施設での幼児・高齢者の生活をとおして他職種の業務を見学し、理解を深める。</td></tr>
<tr><td>到達目標</td><td colspan="6">歯科衛生士として基本姿勢(挨拶・身だしなみなど)を保ち、実践することができる。スタッフ、他職種の方々と連携を図ることができる。</td></tr>
<tr><td>テキスト・
参考図書等</td><td colspan="6">・歯科医院実習見学：臨床実習帳：スケーラーセット、顎模型、口腔ケアセットなど。
・保育園・高齢者施設：臨床実習帳、顎模型口腔ケアセットなど。</td></tr>
<tr><td rowspan="6">評価方法・
評価基準</td><td>評価方法</td><td>評価割合(%)</td><td colspan="4">評価基準</td></tr>
<tr><td>試験</td><td>0</td><td colspan="4" rowspan="5">＊評価基準
A:優れている(助言なしでもほぼできる)
B:できるが発展性がない(多くの助言・指導があればできる)
C:劣っている(多くの助言・指導があってもできない) D:見学・実習をしていない(出席日数不足)
＊評価項目
①医療従事者としての基本姿勢、態度
②月別実習項目の知識
③月別実習項目の技能
①～③をそれぞれ評価後、総合評価する：A(80～100 点)、B(70～79 点)、C(60～69 点)、D(59 点以下)</td></tr>
<tr><td>レポート</td><td>0</td></tr>
<tr><td>小テスト</td><td>0</td></tr>
<tr><td>提出物</td><td>0</td></tr>
<tr><td>その他</td><td>100</td></tr>
<tr><td>履修上の
留意事項</td><td colspan="6">・歯科医院の診療室で主に見学実習を行う。
・保育園、高齢者施設で主に幼児・高齢者への対応を見学する。
①体調管理(欠席、遅刻、早退は厳禁)
②実習生としてのマナー～清潔な白衣、エプロン、実習靴、マスク、グローブを身につける。化粧・毛染めはしない、頭髪、爪、ピアスは外す。挨拶、返事、言葉遣い。</td></tr>
<tr><td rowspan="5">履修主題・
履修内容</td><td>回</td><td colspan="2">履修主題</td><td colspan="3">履修内容</td></tr>
<tr><td>1</td><td colspan="2">歯科医院見学実習</td><td colspan="3">患者の誘導、使用器材の準備、使用後の滅菌消毒、保管方法などを見学する</td></tr>
<tr><td>2</td><td colspan="2">保育園施設見学実習</td><td colspan="3">園児の生活や遊びをとおしてコミニュケーションの図り方を体験する。</td></tr>
<tr><td>3</td><td colspan="2">高齢者施設見学実習</td><td colspan="3">高齢者・障害者の施設生活をとおして介助やコミニュケーションの図り方を体験する。</td></tr>
<tr><td>4</td><td colspan="2">計　7 日間</td><td colspan="3"></td></tr>
</table>

授業科目	臨地・臨床実習Ⅰ	担当教員 実務経験		
対象年次・学期	1 年・通年	担当教員 実務経験		
授業形態				
		担当教員 実務経験		
		担当教員 実務経験		
		担当教員 実務経験		
		担当教員 実務経験		
		担当教員 実務経験		
		担当教員 実務経験		
		担当教員 実務経験		
		担当教員 実務経験		
		担当教員 実務経験		
		担当教員 実務経験		

授業科目	歯型彫刻実習	担当教員	佐々木　英世		
対象年次・学期	1 年・前期	必修・選択区分	必修	単位数	
授業形態		授業回数	15 回	時間数	30 時間
授業目的	上顎中切歯、上顎犬歯、上顎第一小臼歯、下顎第二小臼歯、上顎第一大臼歯、下顎第一大臼歯の歯牙形態の特徴を理解する。				
到達目標	スケッチ、彫刻(石膏柱使用)を通し、各歯牙の解剖学的特徴を説明できる。				
テキスト・参考図書等	・最新歯科衛生士教本「歯･口腔の構造と機能　口腔解剖学・口腔組織発生学・口腔生理学」(医歯薬出版) ・プリント　・切り出しナイフ　・彫刻刀　・見本模型　・段階模型				

評価方法・評価基準	評価方法	評価割合(%)	評価基準
	試験	0	①レポート 10% ②提出物 80%※完成度と期限 ③出席点 10%
	レポート	10	
	小テスト	0	
	提出物	80	
	その他	10	

履修上の留意事項	①実習を中心とした授業。②該当歯牙の形態の特徴を確認し、スケッチの描き方、彫刻の方法をプリント、見本模型、板書、デモなどで示す。 ③単に描く、彫る技術にこだわるのではなく、いかに歯牙の特徴を捉えているかが重要である事を強調する。 ④忘れ物があると作業が遅れるので留意すること。(貸出しは行わない)⑤補習は、(水)以外はしない。⑥刃物の取り扱い、後始末には十分注意すること。

履修主題・履修内容	回	履修主題	履修内容
	1	スケッチの説明、石膏柱作成　(佐々木)	上顎中切歯のスケッチ、石膏柱作成
	2	上顎中切歯のスケッチ、彫刻　(佐々木)	上顎中切歯のスケッチ完成、彫刻
	3	上顎中切歯の彫刻　(佐々木)	上顎中切歯の彫刻完成
	4	上顎犬歯のスケッチ　(田中)	上顎犬歯のスケッチ完成、石膏柱作成
	5	上顎犬歯の彫刻　(田中)	上顎犬歯の彫刻
	6	上顎犬歯の彫刻　(佐々木)	上顎犬歯の彫刻完成、石膏柱作成
	7	上顎第一小臼歯のスケッチ、彫刻　(佐々木)	上顎第一小臼歯のスケッチ完成、彫刻
	8	上顎第一小臼歯の彫刻(佐々木)	上顎第一小臼歯の彫刻完成、石膏柱作成
	9	下顎第二小臼歯のスケッチ、彫刻　(田中)	下顎第二小臼歯のスケッチ完成、彫刻
	10	下顎第二小臼歯の彫刻(田中)	下顎第二小臼歯の彫刻完成
	11	上顎第一大臼歯のスケッチ、彫刻　(佐々木)	上顎第一大臼歯のスケッチ完成、彫刻
	12	上顎第一大臼歯の彫刻(佐々木)	上顎第一大臼歯の彫刻完成
	13	下顎第一大臼歯のスケッチ、彫刻　(田中)	下顎第一大臼歯のスケッチ完成、彫刻
	14	下顎第一大臼歯の彫刻(田中)	下顎第一大臼歯の彫刻完成
	15	総合演習　(田中)	歯牙並べ、各歯牙の特徴を把握しているかを確認

授業科目	歯型彫刻実習	担当教員 実務経験		
対象年次・学期	1 年・前期	担当教員 実務経験		
授業形態				
		担当教員 実務経験		
		担当教員 実務経験		
		担当教員 実務経験		
		担当教員 実務経験		
		担当教員 実務経験		
		担当教員 実務経験		
		担当教員 実務経験		
		担当教員 実務経験		
		担当教員 実務経験		
		担当教員 実務経験		

授業科目	歯科英語	担当教員	杉田　昭子		
対象年次・学期	1 年・後期	必修・選択区分	必修	単位数	
授業形態		授業回数	15 回	時間数	30 時間
授業目的	歯科関係の英語のテキストにより、一般的な英会話能力ならびに歯科医院において実用的な英会話能力を身に付けることを目的にする。				
到達目標	英語で書かれた説明書や簡単な歯科医学文献を理解できるほか、特に英語によるコミュニケーションの必要な患者との最低限の会話を実践できる。				
テキスト・参考図書等	・配付プリント　　・参考図書：最新歯科衛生士教本「歯科英語」（医歯薬出版）				

評価方法・評価基準	評価方法	評価割合(%)	評価基準
	試験	55	①試験 55% ②提出物 30% ②参加態度 15%
	レポート	0	
	小テスト	0	
	提出物	30	
	その他	15	

履修上の留意事項	①文法的なことよりも、全員で教科書を音読、あるいは役割練習で英語を話すことより英語に慣れることに重点をおく。　②会話の練習と歯科英単語の習得を中心にする予定である。恥ずかしがらずにできるだけ大きな声で教科書を音読すること。　③1 回目を除き、できるだけ毎回簡単な歯科英単語の試験を行う。　④主に教科書の Part2 の単語も授業時間内に学習する時間を取ってるので、確実に習得すること。　⑤機会があれば日本映画の英語版を利用してリスニング練習に役立てること。

履修主題・履修内容	回	履修主題	履修内容
	1	Introduction 歯科英単語、Unit 1	自己紹介文の作成① Making an Appointment by Telephone
	2	歯科英単語、Unit 2	自己紹介文の作成② Handling Calls at Reception
	3	歯科英単語、Unit 3	自己紹介（毎回数人毎に presentation を行う） Emergency Appointment
	4	歯科英単語、Unit 4	Asking the Patient to Describe Symptoms
	5	歯科英単語、Unit 5	Asking　the　Medical　History
	6	歯科英単語、Unit 6	Consultation
	7	歯科英単語、Unit 7	Informed　Consent　I
	8	歯科英単語、Unit 8	Informed　Consent　II
	9	歯科英単語、Unit 9	Tooth　Brushing　Instructions
	10	クリニックでのフレーズ、Unit 10	Why Do I Need a Cleaning?
	11	クリニックでのフレーズ、Unit 11	Sealant
	12	クリニックでのフレーズ、Unit 12	Fluoride Treatment
	13	クリニックでのフレーズ、Unit 13	Instruction after tooth extraction
	14	歯式で英語で表現、Unit 14	Periodontal Disease
	15	歯科英単語、Unit 15　まとめ	After Treatment

授業科目	歯科英語	担当教員 実務経験		
対象年次・学期	1 年・後期	担当教員 実務経験		
授業形態				
		担当教員 実務経験		
		担当教員 実務経験		
		担当教員 実務経験		
		担当教員 実務経験		
		担当教員 実務経験		
		担当教員 実務経験		
		担当教員 実務経験		
		担当教員 実務経験		
		担当教員 実務経験		

授業科目	歯科補綴学	担当教員	伊藤　彩		
対象年次・学期	1 年・後期	必修・選択区分	必修	単位数	
授業形態		授業回数	15 回	時間数	30 時間
授業目的	急速に進む高齢化社会において歯牙の欠損に対する補綴処置のニーズは高く、特に、今まで以上に歯科医師と歯科衛生士の連携した治療が要求される。口腔内環境は全身の健康増進に間接的に関与していることを十分に知り、補綴治療の意義・方法などを学ぶ。				
到達目標	実質欠損・欠如に伴う口腔機能の変化を理解した上で、様々な補綴物を用いた治療法とその意義・重要性を習得する。そして、治療を始める際の衛生指導を述べることができる。補綴物装着後のメインテナンスまで歯科衛生士としての患者への関わりを述べることができる。				
テキスト・参考図書等	・最新歯科衛生士教本「咀嚼障害・咬合異常 1　歯科補綴」　（医歯薬出版） ・最新歯科衛生士教本「歯科機器」（医歯薬出版） ・スライド、プリント				

評価方法・評価基準	評価方法	評価割合(%)	評価基準
	試験	70	①実技試験+定期試験 70% ②レポート 20% ③出席数 10%
	レポート	20	
	小テスト	0	
	提出物	0	
	その他	10	

履修上の留意事項	①授業内容の板書、および臨床症例のスライド提示。　②基本的に理由のない遅刻・退出は認めない。 ③再三にわたる注意を受けた際には相当の指導と評価を行う。　④授業内容の予習・復習を行うこと。

履修主題・履修内容	回	履修主題	履修内容
	1	Ⅱ編　2 章　クラウン・ブリッジの治療 1	クラウン・ブリッジ治療の概要
	2	2 章　クラウン・ブリッジの治療 2	クラウン・ブリッジの治療の流れと補助
	3	2 章　クラウン・ブリッジの治療 3	CAD/CAM クラウン・ブリッジの概要と治療の流れ
	4	3 章　有床義歯治療 1	全部床義歯・部分床義歯の概要
	5	3 章　有床義歯治療 2	全部床義歯・部分床義歯治療の流れ（顎間関係の記録）
	6	3 章　有床義歯治療 3	有床義歯における患者指導、義歯の着脱・衛生管理
	7	5 章　治療に用いられる器材(技工所見学)	クラウン・ブリッジ作製の術式、器材、テンポラリークラウン
	8	6 章　治療における歯科技工(技工所見学)	クラウン・ブリッジの技工操作について
	9	4 章　インプラント治療 1	インプラントの治療と概要
	10	4 章　インプラント治療 2	インプラント治療の流れと補助
	11	Ⅱ編　1 章　検査と診査	医療面接と診査、検査
	12	4 章　器材の管理 2	器具器材の消毒滅菌・技工指示書の見方、技工物関連の管理
	13	Ⅰ編　2 章　歯科補綴治療の基礎知識 1	歯列弓の形態とその対合関係、基準平面（藤澤）
	14	Ⅰ編　2 章　歯科補綴治療の基礎知識 2	顎口腔系の機能、咬合様式と顎運動（藤澤）
	15	Ⅰ編　3 章　歯の欠損に伴う障害と補綴歯科治療	顎関節とその異常（藤澤）

授業科目	歯科補綴学	担当教員 実務経験		
対象年次・学期	1 年・後期	担当教員 実務経験		
授業形態				
		担当教員 実務経験		
		担当教員 実務経験		
		担当教員 実務経験		
		担当教員 実務経験		
		担当教員 実務経験		
		担当教員 実務経験		
		担当教員 実務経験		
		担当教員 実務経験		
		担当教員 実務経験		
		担当教員 実務経験		

授業科目	生物学	担当教員	松田　理恵		
対象年次・学期	1 年・前期	必修・選択区分	必修	単位数	
授業形態		授業回数	8 回	時間数	16 時間
授業目的	解剖学、生理学・組織発生学などを理解するための生物学的な基礎知識を習得する。				
到達目標	細胞の構造と機能、物質代謝とエネルギー代謝、ホメオスタシス、生殖発生と分化、遺伝と異変などが述べることができる。				
テキスト・参考図書等	・最新歯科衛生士教本「人体の構造と機能 1 解剖学・組織発生学・生理学」（医歯薬出版） ・最新歯科衛生士教本「人体の構造と機能 2 栄養と代謝」（医歯薬出版）				

評価方法・評価基準	評価方法	評価割合(%)	評価基準
	試験	70	
	レポート	0	
	小テスト	15	
	提出物	15	
	その他	0	

履修上の留意事項	①基本的な事項について教科書・図書を参考にしながら、歯科衛生士に必要と思われる関連事項までに高める授業を行う。毎回まとめレポートを作成する。 ②提出物は遅れず提出すること。

履修主題・履修内容	回	履修主題	履修内容
	1	生物学と人間	生物学とは
	2	生物学の成り立ち 1	生命の単位、細胞の構造と機能
	3	生物学の成り立ち 2	組織と器官
	4	生物体の働き	物質代謝とエネルギー代謝
	5	生物体の調整	神経
	6	生命の連続性 1	ホルモン、ホメオスタシス
	7	生命の連続性 2	発生と分化
	8	生命の連続性 3	免疫

授業科目	生物学	担当教員 実務経験	松田理恵 有：□　　無：■	
対象年次・学期	1 年・前期	担当教員 実務経験		
授業形態				
		担当教員 実務経験		
		担当教員 実務経験		
		担当教員 実務経験		
		担当教員 実務経験		
		担当教員 実務経験		
		担当教員 実務経験		
		担当教員 実務経験		
		担当教員 実務経験		
		担当教員 実務経験		

授業科目	生理学	担当教員	佃　宜和		
対象年次・学期	1 年・前期	必修・選択区分	必修	単位数	
授業形態		授業回数	15 回	時間数	30 時間
授業目的	全身及び口腔の正常な機能を理解するための基礎知識を習得すること。				
到達目標	細胞の構造と機能、筋と運動、神経、消化、循環、呼吸、感覚、内分泌などの役割について述べることができる。歯と歯周組織の機能、咬合と顎運動、嚥下、嘔吐、味覚、唾液、発声の機能について述べることができる。				
テキスト・参考図書等	・最新歯科衛生士教本 「人体の構造と機能 1 解剖学・組織発生学・生理学」（医歯薬出版） ・最新歯科衛生士教本 「歯・口腔の構造と機能　口腔解剖学・口腔組織発生学・口腔生理学」（医歯薬出版）				

評価方法・評価基準	評価方法	評価割合(%)	評価基準
	試験	80	①定期試験 80% ②レポート 10% ③小テスト 10%
	レポート	10	
	小テスト	10	
	提出物	0	
	その他	0	

履修上の留意事項	教科書を中心に、スライド、プリントを用いて講義を行う。

履修主題・履修内容	回	履修主題	履修内容
	1	生理学とは、細胞の構造と機能	生理学で学ぶこと、細胞の構造と基本的生理機能
	2	筋と運動、神経系 ①	筋の構造と収縮機序、運動ニューロン、反射と随意運動
	3	消化・吸収	消化のメカニズム、消化管運動と調節機構
	4	循環	血管の機能、血液の成分と働き、心臓の収縮の仕組みと心電図
	5	呼吸	呼吸運動、ガス交換の仕組み、呼吸の調節
	6	感覚、神経系 ②	感覚の種類、体性・内臓感覚、神経系の主な伝導路

	7	体温、内分泌	体熱の産生と体温調節、内分泌器官の種類、ホルモンの働き
	8	歯と口腔の感覚	歯の圧覚、位置感覚、歯髄の感覚、口腔粘膜の感覚
	9	味覚と嗅覚	味覚の役割、味覚の感受性、味蕾、味覚の神経機構、嗅覚の役割、嗅覚の神経機構
	10	咬合と咀嚼 ①	咬合、下顎位/下顎運動、限界運動
	11	咬合と咀嚼 ②	顎反射、咀嚼、咀嚼能力、吸啜
	12	嚥下と嘔吐	摂食・嚥下の流れ、嚥下の神経機構、嘔吐の機序、嘔吐の神経機構
	13	発声	発声機構、声の生成、言語音の形成
	14	唾液	唾液の分泌機構、唾液の性状・成分と機能
	15	総括	復習・まとめ

授業科目	生理学	担当教員 実務経験		
対象年次・学期	1 年・前期	担当教員 実務経験		
授業形態				
		担当教員 実務経験		
		担当教員 実務経験		
		担当教員 実務経験		
		担当教員 実務経験		
		担当教員 実務経験		
		担当教員 実務経験		
		担当教員 実務経験		
		担当教員 実務経験		
		担当教員 実務経験		
		担当教員 実務経験		

授業科目	歯科医療安全管理	担当教員	橋本　李奈		
対象年次・学期	1 年・通年	必修・選択区分	必修	単位数	
授業形態		授業回数	15 回	時間数	30 時間
授業目的	院内感染対策に関する基本的な考え方を身につける。医薬品の安全使用のための業務を把握する。医療機器の安全管理のための保守点検について学ぶ。				
到達目標	歯科医院における医薬品の安全管理ができる。医療機器のリスクマネジメントができる。院内感染対策のリスクマネジメントができる。				
テキスト・参考図書等	・院内感染予防対策マニュアル＆研修テキスト(医歯薬出版) ・最新歯科衛生士教本「歯科機器」(医歯薬出版)				

評価方法・評価基準	評価方法	評価割合(%)	評価基準
	試験	60	①定期試験 60% ②レポート 20% ③提出物 20%
	レポート	20	
	小テスト	0	
	提出物	20	
	その他	0	

履修上の留意事項	基礎知識を説明後、示説・実習をとおして ①院内感染対策に関する基本的な考え方を身につける。　②使用する医薬品の取り扱いを体験する。　③医療機器の操作や保守点検ができるよう指導する。　④知識・技能が未熟な場合は、放課後補習する。　⑤授業で板書したことは、必ずノートにまとめる。　⑥解らない語句、意味は、積極的に質問するように。

履修主題・履修内容	回	履修主題	履修内容
	1	医療安全と歯科衛生士の自覚　(藤澤)	診療室の医療安全、身だしなみ、ヒアリハット
	2	感染予防　(橋本)	歯科診療における感染対策、患者誘導、ポジッション
	3	滅菌・消毒室の流れ、診療室の消毒(1)　(橋本)	歯科治療の準備～消毒液の作成、滅菌器の取り扱い、歯科治療後の後始末～感染廃棄物の管理
	4	滅菌・消毒室の流れ、診療室の消毒(2)　(橋本)	診療前の準備、診療後の後始末
	5	滅菌・消毒室の流れ、診療室の消毒(3)　(橋本)	術者の実習前・実習後の対応
	6	歯科治療時の感染予防 1 (橋本)	手洗い+口腔内洗浄(バキューム実習)における感染対策
	7	歯科治療時の感染予防 2 (橋本)	診療の補助 1～染め出し+口腔内洗浄実習(感染者)
	8	診療補助と共同動作 1 (藤澤)	診療の補助 2～バキューム操作と口腔内洗浄、使用後の器具の消毒・滅菌、管理
	9	診療補助と共同動作 2 (藤澤)	水平位診療での精密検査実習 1
	10	診療補助と共同動作 3 (藤澤)	水平位診療での精密検査実習 2
	11	診療補助と共同動作 4 (藤澤)	水平位診療での精密検査実習 3(感染者)
	12	診療補助と共同動作 5 (藤澤)	水平位診療での精密検査実習 4(感染者)
	13	スケーリングを想定した感染対策 1　(藤澤)	水平位診療でのスケーリング実習
	14	スケーリングを想定した感染対 2　(藤澤)	水平位診療でのスケーリング実習(感染者)
	15	医療事故・医療過誤・医療紛争　(藤澤)	ヒッヤリハットとインシデントとアクシデントの事例紹介

授業科目	歯科医療安全管理	担当教員 実務経験		
対象年次・学期	1 年・通年	担当教員 実務経験		
授業形態				
		担当教員 実務経験		
		担当教員 実務経験		
		担当教員 実務経験		
		担当教員 実務経験		
		担当教員 実務経験		
		担当教員 実務経験		
		担当教員 実務経験		
		担当教員 実務経験		
		担当教員 実務経験		

授業科目	歯科予防処置法Ⅰ	担当教員	橋本　李奈		
対象年次・学期	1 年・通年	必修・選択区分	必修	単位数	
授業形態		授業回数	45 回	時間数	90 時間
授業目的	口腔疾患（う蝕と歯周疾患)に対しての予防に関する知識と技術を身につける				
到達目標	う蝕予防処置に対する知識と技術を行える。歯周疾患に対する知識とシックルスケーラーをキュレットスケーラーの操作を確実に行える。				
テキスト・参考図書等	・最新歯科衛生士教本「歯科予防処置論・歯科保健指導論」(医歯薬出版)　・使用器材スケーラーセット、顎模型				

評価方法・評価基準	評価方法	評価割合(%)	評価基準
	試験	80	①定期試験 80% ②レポート 10% ③実習技能点 10%
	レポート	10	
	小テスト	0	
	提出物	0	
	その他	10	

履修上の留意事項	＊主に実習を中心に技能習得を確認しながら進行する。実習内で目標を達成できない時は、補習を行う。 ①実習では、爪、頭髪、アクセサリーなどの身だしなみを整える。　②スケーラー操作を習得するため、毎日の訓練を怠らないこと。 ③実習課題は、毎回評価を行う。　④合格ラインに達するまで補習を行う。

履修主題・履修内容	回	履修主題	履修内容
	1	Ⅰ編　1 章歯科予防処置論・歯科保健指導論の概要	❶必要性　❷定義　❸歯科衛生士法における歯科予防処置の位置づけ
	2	Ⅱ編　1 章口腔の基礎知識 1	❶口腔・口腔周囲の構造　❷歯周組織　❸歯冠と歯根の形態
	3	Ⅱ編　2 章口腔の基礎知識 2 Ⅲ編　2 章歯科衛生アセスメントとしての情報収集と情報処理	2 章ー❶ー口腔内の付着物・沈着物　❷歯周組織　❸歯冠と歯根の形態 2 章ー❻口腔の器質的問題の把握
	4	Ⅱ編　2 章口腔の基礎知識 2 Ⅲ編　3 章歯科衛生アセスメントとしての情報収集と情報処理	2 章ー❶ー口腔内の付着物・沈着物　❷歯周組織　❸歯冠と歯根の形態 2 章ー❻口腔の器質的問題の把握
	5	Ⅲ編　3 章歯科衛生介入としての歯科予防処置❶ー1	3 章－❶スケーリング・ルートプレーニング　1.手用スケーラー　1)構成 2)基本設定　3.ミラーテクニック
	6	Ⅲ編　3 章歯科衛生介入としての歯科予防処置❶ー2	3 章－❶スケーリング・ルートプレーニング　1.手用スケーラー 3）スケーラーの種類と操作方法　4）部位別操作法
	7	Ⅲ編　3 章歯科衛生介入としての歯科予防処置❶ー3	3 章－❶スケーリング・ルートプレーニング　1.手用スケーラー 4）部位別操作法：下顎前歯部練習 1
	8	Ⅲ編　3 章歯科衛生介入としての歯科予防処置❶ー4	3 章－❶スケーリング・ルートプレーニング　1．手用スケーラー 4）部位別操作法：下顎前歯部練習 2
	9	Ⅲ編　3 章歯科衛生介入としての歯科予防処置❶ー5	3 章－❶スケーリング・ルートプレーニング　1.手用スケーラー 4)部位別操作法：下顎前歯部評価
	10	Ⅲ編　3 章歯科衛生介入としての歯科予防処置❶ー6	3 章－❶スケーリング・ルートプレーニング　1.手用スケーラー 4)部位別操作法：上顎前歯部練習 1
	11	Ⅲ編　3 章歯科衛生介入としての歯科予防処置❶ー7	3 章－❶スケーリング・ルートプレーニング　1.手用スケーラー

			4)部位別操作法：上顎前歯部練習 2
	12	III編　3 章歯科衛生介入としての歯科予防処置❶ー8	3 章－❶スケーリング・ルートプレーニング　1.手用スケーラー 4)部位別操作法：上顎前歯部評価
	13	III編　3 章歯科衛生介入としての歯科予防処置❶ー9	3 章－❶スケーリング・ルートプレーニング　1.手用スケーラー 4)部位別操作法：下顎右側臼歯部練習
	14	III編　3 章歯科衛生介入としての歯科予防処置❶ー10	3 章－❶スケーリング・ルートプレーニング　1.手用スケーラー 4)部位別操作法：下顎右側臼歯部評価
	15	III編　3 章歯科衛生介入としての歯科予防処置❶ー11	3 章－❶スケーリング・ルートプレーニング　1.手用スケーラー 4)部位別操作法：下顎左側臼歯部練習
	16	III編　3 章歯科衛生介入としての歯科予防処置❶ー12	3 章－❶スケーリング・ルートプレーニング　1.手用スケーラー 4)部位別操作法：下顎左側臼歯部評価
	17	III編　3 章歯科衛生介入としての歯科予防処置❶ー13	3 章－❶スケーリング・ルートプレーニング　1.手用スケーラー 4)部位別操作法：上顎右側臼歯部練習
	18	III編　3 章歯科衛生介入としての歯科予防処置❶ー14	3 章－❶スケーリング・ルートプレーニング　1.手用スケーラー 4)部位別操作法：上顎右側臼歯部評価
	19	III編　3 章歯科衛生介入としての歯科予防処置❶ー15	3 章－❶スケーリング・ルートプレーニング　1.手用スケーラー 4)部位別操作法：上顎左側臼歯部練習
	20	III編　3 章歯科衛生介入としての歯科予防処置❶ー16	3 章－❶スケーリング・ルートプレーニング　1.手用スケーラー 4)部位別操作法：上顎左側臼歯部評価
	21	III編　3 章歯科衛生介入としての歯科予防処置❶ー17	3 章－❶スケーリング・ルートプレーニング　1.手用スケーラー 5)部位別操作法：全顎部位からの実技評価
	22	III編　3 章歯科衛生介入としての歯科予防処置❶ーA	3 章－❶スケーリング・ルートプレーニング　1.手用スケーラー 4)イリゲーション　　6)シャープニング：練習
	23	III編　4 章歯科衛生介入としての歯科予防処置❶ーB	3 章－❶スケーリング・ルートプレーニング　1.手用スケーラー 4)イリゲーション　　6)シャープニング：評価
	24	III編　3 章歯科衛生介入としての歯科予防処置❶ー i	3 章－❶スケーリング・ルートプレーニング　2.パワースケーラー 2)超音波スケーラー：マネキン実習 1
	25	III編　4 章歯科衛生介入としての歯科予防処置❶ー ii	3 章－❶スケーリング・ルートプレーニング　2.パワースケーラー 2)超音波スケーラー：マネキン実習 2
	26	III編　4 章歯科衛生介入としての歯科予防処置❶ー iii	3 章－❶スケーリング・ルートプレーニング　2.パワースケーラー 3)エアスケーラー　マネキン実習 1
	27	III編　5 章歯科衛生介入としての歯科予防処置❶ー iv	3 章－❶スケーリング・ルートプレーニング　2.パワースケーラー 3)エアスケーラー　マネキン実習 2
	28	III編　5 章歯科衛生介入としての歯科予防処置❶ー v	3 章－❶スケーリング・ルートプレーニング　2.パワースケーラー 2)緒音波スケーラー　3)エアスケーラー　まとめ
	29	III編　5 章歯科衛生介入としての歯科予防処置❷ー1	3 章－❷歯面研磨・歯面清掃　1.歯面研磨　2.PTC/PMTC マネキン実習 1
	30	III編　5 章歯科衛生介入としての歯科予防処置❷ー2	3 章－❷歯面研磨・歯面清掃　1.歯面研磨　2.PTC/PMTC マネキン実習 2
	31	III編　5 章歯科衛生介入としての歯科予防処置❷ー3	3 章－❷歯面研磨・歯面清掃　2.歯面清掃　マネキン実習 1
	32	III編　5 章歯科衛生介入としての歯科予防処置❷ー4	3 章－❷歯面研磨・歯面清掃　2.歯面清掃　マネキン実習 2
	33	III編　5 章歯科衛生介入としての歯科予防処置❷ー5	3 章－❷歯面研磨・歯面清掃　まとめ
	34	III編　5 章歯科衛生介入としての歯科予防処置❸ー1	3 章－❸フッ化物の応用　2.フッ化物歯面塗布
	35	III編　5 章歯科衛生介入と	3 章－❸フッ化物の応用　2.フッ化物歯面塗布（マネキン

		しての歯科予防処置❸ー2	実習 1）
	36	Ⅲ編　5 章歯科衛生介入としての歯科予防処置❸ー3	3 章－❸フッ化物の応用　2.フッ化物歯面塗布（マネキン実習 2）
	37	Ⅲ編　5 章歯科衛生介入としての歯科予防処置❸ー4	3 章－❸フッ化物の応用　2.フッ化物歯面塗布（相互実習 1）
	38	Ⅲ編　5 章歯科衛生介入としての歯科予防処置❸ー5	3 章－❸フッ化物の応用　2.フッ化物歯面塗布（相互実習 2）
	39	Ⅲ編　5 章歯科衛生介入としての歯科予防処置❸ー6	3 章－❸フッ化物の応用　3.フッ化物洗口法　　4.フッ化物配合歯磨剤
	40	Ⅲ編　5 章歯科衛生介入としての歯科予防処置❸ー7	3 章－❸フッ化物の応用　5.フッ化物の毒性と急性中毒への対応 6.ライフステージ別のフッ化物局所応用
	41	Ⅲ編　3 章歯科衛生介入としての歯科予防処置❹ー1	3 章－❹小窩裂溝填塞法　3.術式　1)器具・薬剤の準備：マネキン実習 1
	43	Ⅲ編　3 章歯科衛生介入としての歯科予防処置❹ー2	3 章－❹小窩裂溝填塞法　3.術式　2)レジン系・セメント系小窩裂溝法 マネキン実習 2
	44	Ⅲ編　3 章歯科衛生介入としての歯科予防処置❹ー3	3 章－❹小窩裂溝填塞法：相互実習 2
	45	Ⅲ編　3 章歯科衛生介入としての歯科予防処置（総括 1）	3 章－❹小窩裂溝填塞法：相互実習 2

授業科目	歯科予防処置法Ⅰ	担当教員 実務経験		
対象年次・学期	1 年・通年	担当教員 実務経験		
授業形態				
		担当教員 実務経験		
		担当教員 実務経験		
		担当教員 実務経験		
		担当教員 実務経験		
		担当教員 実務経験		
		担当教員 実務経験		
		担当教員 実務経験		
		担当教員 実務経験		
		担当教員 実務経験		

授業科目	組織・発生学・口腔解剖学・歯牙解剖学	担当教員	杉田　昭子		
対象年次・学期	1 年・通年	必修・選択区分	必修	単位数	
授業形態		授業回数	30 回	時間数	60 時間
授業目的	口腔、歯の発生や形成過程、さらに構造や形態を理解することにより、今後の臨床歯科学を学ぶ基礎を築く。				
到達目標	顔面、口腔、歯の形成過程、歯と歯周組織の微細構造を述べることができる。また口腔およびその周辺の構造を述べることができる。歯の形態を理解し、歯種を鑑別できるようにする。				
テキスト・参考図書等	・最新歯科衛生士教本「歯・口腔の構造と機能　口腔解剖学・口腔組織発生学・口腔生理学」(医歯薬出版)				

評価方法・評価基準

評価方法	評価割合(%)	評価基準
試験	80	①定期試験 80% ②レポート 10% ③出席点 10%
レポート	10	
小テスト	0	
提出物	0	
その他	10	

履修上の留意事項	①教科書を中心に、スライド、プリント、模型などを用いて講義を行う。　②要点はすべて板書するので、ノートをとること。

履修主題・履修内容

回	履修主題	履修内容
1	歯の解剖学的総論①	歯の定義、特徴、構造、歯の種類
2	歯の解剖学的総論②	歯の記号、方向用語、ミュールライターの三徴候
3	永久歯①	中切歯、側切歯
4	永久歯②	犬歯
5	永久歯③	小臼歯
6	永久歯④	上顎大臼歯
7	永久歯⑤	下顎大臼歯
8	乳歯	乳歯の特徴、乳切歯、乳犬歯、乳臼歯
9	歯の異常	歯数、大きさ、歯冠、歯根、萌出の異常
10	歯列と咬合	咬合湾曲、空隙、咬合の型
11	歯の発生	歯堤、雷状期、帽状期、鐘状期、歯の萌出
12	エナメル質	エナメル小柱、レチウス条、シュレーゲル状
13	象牙質／歯髄	象牙細管、エブネル線、オーエンの外形線、歯髄の細胞成分、血管、神経
14	セメント室／歯根膜	セメント室の分類、細胞と繊維、歯根膜の機能、歯根膜の細胞と繊維
15	歯槽骨／歯肉	固有歯槽骨、支持歯槽骨、歯肉の区分と歯槽粘膜、歯肉上皮、歯肉固有層
16	顔面の発生	鰓弓、顔面・口唇・口蓋・舌・腺の形成
17	口腔①	口腔とその周囲の表面、口腔前庭、固有口腔
18	口腔②	口蓋、舌
19	咽頭と喉頭	咽頭、喉頭の構造
20	頭蓋骨①	頭蓋を構成する骨
21	頭蓋骨②	泉門、縫合
22	頭蓋骨③	内頭蓋底、外頭蓋底

	23	口腔を構成する骨①	上顎骨、口蓋骨
	24	口腔を構成する骨②	下顎骨
	25	咀嚼筋、顔面筋	咀嚼筋（起始と停止、作用)、顔面筋（表情筋）
	26	頸部の筋、顎関節	舌骨上筋群、舌骨化筋群、顎関節を構成する骨、関節円板、靭帯、下顎運動
	27	口腔周囲の脈管①	総頚動脈、外頸動脈、顔面動脈
	28	口腔周囲の脈管②	顎動脈、内頸静脈、リンパ節、扁桃
	29	神経	脳神経（三叉神経、顔面神経、舌咽神経、迷走神経）
	30	唾液腺	大唾液腺、小唾液腺

授業科目	組織・発生学・口腔解剖学・歯牙解剖学	担当教員 実務経験		
対象年次・学期	1 年・通年	担当教員 実務経験		
授業形態				
		担当教員 実務経験		
		担当教員 実務経験		
		担当教員 実務経験		
		担当教員 実務経験		
		担当教員 実務経験		
		担当教員 実務経験		
		担当教員 実務経験		
		担当教員 実務経験		
		担当教員 実務経験		
		担当教員 実務経験		

授業科目	情報処理実習	担当教員	赤尾　みどり		
対象年次・学期	1 年・前期	必修・選択区分	必修	単位数	
授業形態		授業回数	15 回	時間数	30 時間
授業目的	この授業は、本校における学習に必要な情報リテラシーを身につけることを目的とし、コンピュータ操作法の基礎を学ぶ。また、ワープロ、表計算ソフトウェア、パワーポイントなどを活用したビジネス情報の処理ができる。パソコンを有効活用するための知識と操作法を習得する。				
到達目標	①ワード・ドキュメントを使ってレポートが作成できる。　②エクセル・スプレッドシートを使って表や図が作成できる。　③パワーポイント・スライドを使ってスライドが作成できる。				
テキスト・参考図書等	必要に応じてプリントを配付				

評価方法・評価基準	評価方法	評価割合(%)	評価基準
	試験	50	①各試験の平均点 50% ②レポート点(提出物状況)50%
	レポート	50	
	小テスト	0	
	提出物	0	
	その他	0	

履修上の留意事項	①授業は PC 室で行うので時間までに着席していること。②説明と実習（実習がメイン)、高校の必修教科「情報」で学ぶ Windows の基本操作（日本語入力、フォルダの新規作成、ファイルの移動・コピー、開く・閉じる等）は、既習であることを前提とする。③積み重ねの演習が多いので休まずに出席すること。

履修主題・履修内容	回	履修主題	履修内容
	1	情報処理の基礎	Windows とインターネットの基礎(情報セキュア・著作権等)、メールの送受信とフォルダの作成、Ｇｏｏｇｌｅアプリ・Webclass 等の使い方
	2	文書化の基本Ⅰ	効率的な文字入力と変換、文字装飾
	3	文書化の基本Ⅱ	作表 1、画像・図形の利用 1
	4	文書化の基本Ⅲ	作表 2、画像・図形の利用 2
	5	文書化の基本Ⅳ	練習問題
	6	表計算ソフトの活用Ⅰ	データ入力とワークシートの編集
	7	表計算ソフトの活用Ⅱ	四則演算と関数の基礎、作表と編集
	8	表計算ソフトの活用Ⅲ	グラフ表現の要点とグラフ作成
	9	表計算ソフトの活用Ⅳ	練習問題
	10	文書作成ソフトと表計算ソフトの連携	総復習、総合練習問題
	11	プレゼンテーションソフトの活用Ⅰ	スライド編集、文字装飾と図形の活用
	12	プレゼンテーションソフトの活用Ⅱ	特殊効果（グラフ、スマートアートの活用、アニメーション効果）
	13	プレゼンテーションソフトの活用Ⅲ	表・ワードアートの挿入、テーマの設定
	14	プレゼンテーションソフトの活用Ⅳ	資料作成とプレゼンテーションの基礎知識
	15	プレゼンテーションソフトの活用Ⅴ	総合演習、プレゼンテーション

授業科目	情報処理実習	担当教員 実務経験		
対象年次・学期	1 年・前期	担当教員 実務経験		
授業形態				
		担当教員 実務経験		
		担当教員 実務経験		
		担当教員 実務経験		
		担当教員 実務経験		
		担当教員 実務経験		
		担当教員 実務経験		
		担当教員 実務経験		
		担当教員 実務経験		
		担当教員 実務経験		
		担当教員 実務経験		

授業科目	保存修復学	担当教員	佃　宜和		
対象年次・学期	1 年・後期	必修・選択区分	必修	単位数	
授業形態		授業回数	10 回	時間数	20 時間
授業目的	歯科診療の最も根幹的な部分に相当する保存修復学（齲蝕を含めた歯の硬組織疾患の予防や治療）についての知識を身に付け、それに基づいた診療補助ができるようになる。				
到達目標	歯科保存学、保存修復学の概要を述べることができる。口腔診査の準備、流れが説明できる。各修復処置、修復材料の特徴と処置の手順を理解し、その診療補助が実施できる。				
テキスト・参考図書等	・最新歯科衛生士教本「歯の硬組織・歯髄疾患　保存修復・歯内療法」(医歯薬出版)				

評価方法・評価基準	評価方法	評価割合(%)	評価基準
	試験	80	①定期試験 80% ②小テスト 20%
	レポート	0	
	小テスト	20	
	提出物	0	
	その他	0	

履修上の留意事項	①教科書の内容に基づき、スライド(パワーポイント)を用い、「講義スタイル」で行う。　②講義の終わりに内容に関して「確認小テスト」を行う。(10 分ほど)　③遅刻・途中退室は、認めない。(特別な理由のある場合は除く)

履修主題・履修内容	回	履修主題	履修内容
	1	歯科保存学総論	歯の保存療法、口腔検査について
	2	保存修復学概要(1)	硬組織疾患、齲蝕の病態
	3	保存修復学概要(2)	窩洞と保存修復治療について
	4	保存修復学概要(3)	保存修復治療の準備、歯の切削・窩洞形成
	5	保存修復学概要(4)	齲蝕の除去と歯髄保護、保存修復法の種類
	6	コンポジットレジン修復(1)	レジン修復に用いられる材料に関して、歯質接着の基礎
	7	コンポジットレジン修復(2)、セメント修復	レジン修復の手順とそれに関わる項目について、グラスアイオノマーセメント修復
	8	インレー修復(1)	鋳造修復のあらましとその特徴、鋳造(メタルインレー)修復の手順
	9	インレー修復(2)、ベニヤ修復	セラミックインレー修復他、ラミネートベニヤ修復の概要
	10	合着材および接着材、講義のまとめ	各種セメントの特徴と使用法、講義全体のまとめ

授業科目	保存修復学	担当教員 実務経験		
対象年次・学期	1 年・後期	担当教員 実務経験		
授業形態				
		担当教員 実務経験		
		担当教員 実務経験		
		担当教員 実務経験		
		担当教員 実務経験		
		担当教員 実務経験		
		担当教員 実務経験		
		担当教員 実務経験		
		担当教員 実務経験		
		担当教員 実務経験		
		担当教員 実務経験		

授業科目	院内感染予防	担当教員	伊藤　彩		
対象年次・学期	1 年・前期	必修・選択区分	必修	単位数	
授業形態		授業回数	10 回	時間数	20 時間
授業目的	感染症の原因となる微生物の特徴を把握し、標準予防策、感染経路別対策、滅菌・消毒、環境管理を含めた効果的な感染対策を習得する。				
到達目標	各滅菌・消毒法について説明できる。目的に応じて適切な滅菌・消毒を選択できる。効果的な滅菌・消毒を実践できる。清潔域・不潔域の区別がわかる。 正しい手洗いができる。スタンダードプリコーションの実践的対策を遵守できる。				
テキスト・参考図書等	・最新歯科衛生士教本「歯科診療補助論」(医歯薬出版)　・院内感染予防対策マニュアル＆研修テキスト(医歯薬出版)				

評価方法・評価基準

評価方法	評価割合(%)	評価基準
試験	60	①定期試験 60% ②レポート 20% ③提出物 20%
レポート	20	
小テスト	0	
提出物	20	
その他	0	

履修上の留意事項

①講義、示説、演習形式で行う。　②講義は教本を中心に板書する。　③示説はスライド、DVD などを使い説明する。
④演習は 1 人ずつ 3 人 1 組でグループごとに体験する。　⑤身だしなみを整える。(アクセサリー、時計は外す)頭髪、着衣が適切でない時は、演習に参加することはできないので、注意すること。　⑥忘れ物はしない。

履修主題・履修内容

回	履修主題	履修内容
1	歯科医療における感染予防対策、手指消毒(1)	スタンダードプレコーション、身だしなみ、マスク、グローブの着脱、手洗い
2	歯科医療における感染予防対策、手指消毒(2)	観血的治療の防護衣着用、手洗い
3	滅菌と消毒(1)	各種滅菌器の種類と特徴、使用濃度に合わせて消毒液の用途
4	滅菌と消毒(2)	診療前の基本セットの準備と・診療後の使用器材の消毒・滅菌
5	滅菌と消毒(3)	小器具(コントラ、ポリッシングブラシ、ラバーカップなど)の準備・消毒・滅菌・保管と管理
6	滅菌と消毒(4)	感染者への感染対策、使用器具の準備・消毒・滅菌・保管と管理
7	フォーハンデッドデンティストリィーにおける感染対策実習 1	マネキン上でバキューム操作を想定した実習
8	フォーハンデッドデンティストリィーにおける感染対策実習 2	マネキン上で感染者を沿うてしたバキューム実習
9	ユニット、スピットンなどの洗浄・消毒、廃棄物処理	スピットン、バキュームホースの洗浄・清掃、医療廃棄物の取り扱い
10	総合演習	リスクマネジメント

授業科目	院内感染予防	担当教員 実務経験		
対象年次・学期	1 年・前期	担当教員 実務経験		
授業形態				
		担当教員 実務経験		
		担当教員 実務経験		
		担当教員 実務経験		
		担当教員 実務経験		
		担当教員 実務経験		
		担当教員 実務経験		
		担当教員 実務経験		
		担当教員 実務経験		
		担当教員 実務経験		

授業科目	歯科診療補助法Ⅰ	担当教員	伊藤　彩		
対象年次・学期	1年・通年	必修・選択区分	必修	単位数	
授業形態		授業回数	30回	時間数	60時間
授業目的	歯科治療や手術の補助をスムーズに展開するために、準備する器材、術式、診療時の留意点などを理解し、実践できる力を身につける。歯周疾患の予防的知識と処置を学ぶ。				
到達目標	フォーハンドシステムでのバキューム操作、器具の取り扱い、受け渡しなどができる。歯科材料(印象材、石膏、合着材、成形修復材など)を適切に取り扱うことができる。全身疾患をもつ患者の診療の補助ができる。				
テキスト・参考図書等	・最新歯科衛生士教本「歯科診療補助論」(医歯薬出版)　・最新歯科衛生士教本「歯科材料」(医歯薬出版) ・最新歯科衛生士教本「歯科機器」(医歯薬出版)　・スケーラーセット、顎模型				

評価方法・評価基準	評価方法	評価割合(%)	評価基準
	試験	80	①定期試験80% ②レポート10% ③実習技能点10%
	レポート	10	
	小テスト	0	
	提出物	0	
	その他	10	

履修上の留意事項	①講義・示説、演習形式で行う。　②講義は教本を中心に板書する。　③示説はスライド、DVDなどを使って説明する。　④演習は、1人ずつ、3人1組、グループごとに体験する。　⑤私語厳禁、積極的な受講態度。　⑥学生指導に基づいた身だしなみ。(整髪、薄化粧、爪、ピアスは外す、エプロン装着) ⑦忘れ物はしない。

履修主題・履修内容	回	履修主題	履修内容
	1	1章　歯科診療補助の概念	1.歯科衛生士の業務と歯科診療補助　2.診療の補助の範囲の法的な変化
	2	5章　歯科診療で扱う歯科材料　①印象採得　1	1.基礎知識　2.アルジネート印象材による概形印象採得(1)
	3	5章　歯科診療で扱う歯科材料　①印象採得　2	1.基礎知識　2.アルジネート印象材による概形印象採得(2)
	4	5章　②模型の作製　1	1.歯科用石膏の基礎知識　2.歯科用石膏の練和
	5	5章　②模型の作製　2	3.歯科用石膏の管理方法
	6	5章　①印象採得　3	3.寒天印象採得の補助
	7	5章　①印象採得　4	4.合成ゴム質印象の補助
	8	5章　①印象採得　5	5.その他の印象材の取り扱い
	9	5章　①合着・接着の補助1	1)練和の基本　～一括練和・筆積法または混和法・分割練和　(1)
	10	5章　①合着・接着の補助2	1)練和の基本　～一括練和・筆積法または混和法・分割練和　(2)
	11	5章　①合着・接着の補助3	2.合着・接着の際に患者に説明しておくべき事項
	12	5章　④成型歯冠修復の補助　1	1.基礎知識　　2.成型歯冠修復材の種類
	13	5章　④成型歯冠修復の補助　2	3.コンポジットレジンの取り扱い
	14	5章　④成型歯冠修復の補助　3	4.グラスアイオノマーセメントの取り扱い
	15	5章　⑤仮封・仮着の補助1	1.基礎知識　2.仮封材・仮着材の種類　3.セメント系の取り扱い
	16	5章　⑤仮封・仮着の補助2	4.水硬性仮封材　5.仮封用軟質レジン　6.ストッピングの取り扱い
	17	3章　⑦ラバーダム防湿1	1.基礎知識：目的、利点、欠点、器具の名称と用途、手順、マネキン実習
	18	3章　⑦ラバーダム防湿2	マネキン実習(前歯部・臼歯部)：1歯露出、2歯露出など

	19	3 章　⑦ラバーダム防湿3	相互実習：1 歯露出
	20	3 章　⑧歯肉圧排	歯肉圧排法、歯肉圧排用薬剤、歯肉圧排の手順
	21	4 章　①保存修復時の診療補助(直接法)	保存修復治療の例と診療補助の流れ(器具の名称と用途、成形修復材)
	22	4 章　①保存修復時の診療補助(間接法)	保存修復治療の例と診療補助の流れ(窩洞形成と印象採得)
	23	4 章　②歯内療法時の診療補助(麻抜法)	歯内療法の例と診療補助の流れ(交互洗浄と綿栓巻き)
	24	4 章　②歯内療法時の診療補助(根充)	歯内療法の例と診療補助の流れ(器具の名称と用途、仮封材の練和)
	25	4 章　③歯周治療時の診療補助	歯周治療の例と診療補助の流れ(歯周外科手術と使用器具の名称と用途)
	26	4 章　④補綴治療時の診療補助(クラウン)	補綴治療の例と診療補助の流れ(補綴物の種類)
	27	4 章　④補綴治療時の診療補助(義歯)	補綴治療の例と診療補助の流れ(局部床義歯と全部床義歯)
	28	5 章　⑥ワックス	1.基礎知識　2.ワックスの種類と用途
	29	4 章　⑤口腔外科治療時の診療補助　⑥歯科麻酔時の診療補助	口腔外科治療の例と診療補助の流れ(小手術の器具) 口腔外科学・歯科麻酔学：歯科衛生士の役割のまとめ
	30	4 章　⑧小児歯科時の診療補助	小児歯科治療の例と診療補助の流れ(保存修復に使用する器具・材料)

授業科目	歯科診療補助法Ⅰ	担当教員 実務経験		
対象年次・学期	1 年・通年	担当教員 実務経験		
授業形態				
		担当教員 実務経験		
		担当教員 実務経験		
		担当教員 実務経験		
		担当教員 実務経験		
		担当教員 実務経験		
		担当教員 実務経験		
		担当教員 実務経験		
		担当教員 実務経験		
		担当教員 実務経験		
		担当教員 実務経験		

授業科目	生化学	担当教員	山内　芳子		
対象年次・学期	1 年　通年	必修・選択区分	必修	単位数	
授業形態		授業回数	8 回	時間数	16 時間
授業目的	生体における化学反応について理解する。				
到達目標	糖質、タンパク質、脂質の代謝、消化・吸収について述べることができる。				
テキスト・参考図書等	・最新歯科衛生士教本「人体の構造と機能 2　栄養と代謝」（医歯薬出版）				

評価方法・評価基準	評価方法	評価割合(%)	評価基準
	試験	80	①定期試験 80% ②レポート 7% ③小テスト 7% ④出席点 6%
	レポート	7	
	小テスト	7	
	提出物	0	
	その他	6	

履修上の留意事項	①基本的には講義スタイルで授業を進める。 ②必要に応じてレポートや小テストを行う。

履修主題・履修内容	回	履修主題	履修内容
	1	生体の構成要素	生体の構造、細胞の構造と機能
	2	生体における化学反応	代謝の流れと酵素
	3	生体に必要な栄養素の構造と性質①	糖質・脂質の構造
	4	生体に必要な栄養素の構造と性質②	タンパク質の構造・ビタミンの性質
	5	糖質の代謝	糖質の消化・吸収過程
	6	脂質の代謝	脂質の消化・吸収過程
	7	タンパク質の代謝	タンパク質の消化・吸収過程
	8	唾液	唾液の成分やその働きについて

授業科目	生化学	担当教員 実務経験		
対象年次・学期	1 年　通年	担当教員 実務経験		
授業形態				
		担当教員 実務経験		
		担当教員 実務経験		
		担当教員 実務経験		
		担当教員 実務経験		
		担当教員 実務経験		
		担当教員 実務経験		
		担当教員 実務経験		
		担当教員 実務経験		
		担当教員 実務経験		
		担当教員 実務経験		

授業科目	歯科保健指導法Ⅰ	担当教員	松岡　円		
対象年次・学期	1年・通年	必修・選択区分	必修	単位数	
授業形態		授業回数	30回	時間数	60時間
授業目的	歯科保健指導は歯科衛生士にとって主要な業務の1つであり、個人を対象としてその生活行動に適した専門的な立場からの助言や援助ができる力を養う。				
到達目標	口腔清掃の意義、歯科保健指導の目的を述べることができる。口腔内の観察ポイントや、正常像と初期病変との違いがわかり説明できる。歯垢の構成と病原性について述べることができる。口腔内を観察し、検査が実施できる。				
テキスト・参考図書等	・最新歯科衛生士教本「歯科予防処置論・歯科保健指導論」(医歯薬出版)　・使用器材スケーラーセット一式、顎模型、口腔ケアセット				

評価方法・評価基準	評価方法	評価割合(%)	評価基準
	試験	80	①定期試験80% ②レポート10% ③実習技能点10%
	レポート	10	
	小テスト	0	
	提出物	0	
	その他	10	

履修上の留意事項	①講義・演習・マネキン実習。　②講義と演習・実習の同時進行。 実習に必要なものを忘れない（忘れた場合は実習不可)。　実習は、爪、頭髪など身だしなみを整えて臨むこと。実習時は、アクセサリー、時計ははずすこと。

履修主題・履修内容	回	履修主題	履修内容
	1	Ⅰ編　1章歯科予防処置論・歯科保健指導論の概要1	❶必要性　❷定義　❸歯科衛生士法における歯科保健指導の位置づけ
	2	Ⅰ編　1章歯科予防処置論・歯科保健指導論の概要2	❹健康概念　❺予防の概念
	3	Ⅱ編　1章口腔の基礎知識1	❶口腔・口腔周囲の構造　❷歯周組織　❸歯冠と歯根の形態
	4	Ⅱ編　1章口腔の基礎知識2	❹口腔の機能
	5	Ⅱ編　2章う蝕と歯周病の知識1	2章ー❶ー口腔内の付着物・沈着物　❷う蝕　❸歯周組織
	6	Ⅱ編　2章う蝕と歯周病の知識2	3章ー❶ー口腔内の付着物・沈着物　❷う蝕　❸歯周組織
	7	Ⅱ編　3章食生活指導のための基礎知識1	3章ー❶栄養の現状　❷栄養素の役割　❸栄養素の働き
	8	Ⅱ編　3章食生活指導のための基礎知識2	3章ー❹栄養素の消化・吸収　❺食事摂取基準　❻食品のう蝕誘発性
	9	Ⅱ編　3章食生活指導のための基礎知識3	3章ー❻食品のう蝕誘発性　❼歯周病と食生活
	10	Ⅱ編　3章食生活指導のための基礎知識4	3章ー❽酸蝕症と食生活　❾咀嚼と食品　❿特別用途食品と保健機能食品
	11	Ⅲ編　1章歯科衛生過程の進め方1	1章ー❶歯科衛生過程の進め方　❷歯科衛生過程の各構成要素
	12	Ⅲ編　2章歯科衛生アセスメントとしての情報取集と情報処理1	2章ー❶患者からのの情報収集　❷全身の健康状態の把握　❸認知機能の評価
	13	Ⅲ編　2章歯科衛生アセスメントとしての情報取集と情報処理2	2章ー❹生活環境と生活背景の把握　❺生活習慣の把握
	14	Ⅲ編　2章歯科衛生アセスメントとしての情報取集と情報処理3	2章ー❻口腔の器質的問題の把握1
	15	Ⅲ編　2章歯科衛生アセスメントとしての情報取集と情報処理4	2章ー❻口腔の器質的問題の把握2

	16	III編　2章歯科衛生アセスメントとしての情報取集と情報処理5	2章一❼口腔の機能的問題の把握1
	17	III編　2章歯科衛生アセスメントとしての情報取集と情報処理6	2章一❼口腔の機能的問題の把握2
	18	III編　2章歯科衛生アセスメントとしての情報取集と情報処理7	2章一❽分析のためのデータ1　1.指標　1）口腔衛生状態
	19	III編　2章歯科衛生アセスメントとしての情報取集と情報処理8	2章一❽分析のためのデータ1　1.指標　2)歯周疾患指数
	20	III編　2章歯科衛生アセスメントとしての情報取集と情報処理9	3章一❽分析のためのデータ3　1.指標　3）う蝕指数　2.写真・画像
	21	III編　2章歯科衛生アセスメントとしての情報取集と情報処理10	3章一❽分析のためのデータ3　2.写真・画像
	22	III編　2章歯科衛生アセスメントとしての情報取集と情報処理11	3章一❽分析のためのデータ3　3.歯周病に関する検査　4.う蝕に関する検査1
	23	III編　2章歯科衛生アセスメントとしての情報取集と情報処理12	3章一❽分析のためのデータ3　3.歯周病に関する検査　4.う蝕に関する検査2
	24	III編　4章歯科衛生介入としての歯科保健指導1	4章一❶口腔衛生管理に関わる指導　1.ブラッシング1
	25	III編　4章歯科衛生介入としての歯科保健指導2	4章一❶口腔衛生管理に関わる指導　1.ブラッシング2
	26	III編　4章歯科衛生介入としての歯科保健指導3	4章一❶口腔衛生管理に関わる指導　2.その他の清掃方法1
	27	III編　4章歯科衛生介入としての歯科保健指導4	4章一❶口腔衛生管理に関わる指導　2.その他の清掃方法2
	28	III編　4章歯科衛生介入としての歯科保健指導5	4章一❶口腔衛生管理に関わる指導　3.洗口液・洗口剤 4.保湿剤
	29	III編　4章歯科衛生介入としての歯科保健指導6	4章一❷口腔機能管理に関わる指導①　1.口腔機能の発達に関連する指導 2.口腔機能低下に関連する指導
	30	III編　4章歯科衛生介入としての歯科保健指導7	4章一❷口腔機能管理に関わる指導②　1.口腔機能の発達に関連する指導 2.口腔機能低下に関連する指導　3.まとめ

授業科目	歯科保健指導法Ⅰ	担当教員 実務経験		
対象年次・学期	1年・通年	担当教員 実務経験		
授業形態				
		担当教員 実務経験		
		担当教員 実務経験		
		担当教員 実務経験		
		担当教員 実務経験		
		担当教員 実務経験		
		担当教員 実務経験		
		担当教員 実務経験		
		担当教員 実務経験		
		担当教員 実務経験		
		担当教員 実務経験		

授業科目	病理学	担当教員	仲盛　優菜		
対象年次・学期	1 年・前期	必修・選択区分	必修	単位数	
授業形態		授業回数	15 回	時間数	30 時間
授業目的	歯科衛生士として必要な疾患の原因、病態に関する基礎的な知識を習得する。				
到達目標	疾患の成り立ちや診断について述べることができる。疾患の予後について述べることができる。 口腔領域の疾患の種類や病態について述べることができる。				
テキスト・ 参考図書等	・最新歯科衛生士教本「疾病の成り立ち及び回復過程の促進 1　病理学・口腔病理学」（医歯薬出版）				

評価方法・評価基準	評価方法	評価割合(%)	評価基準
	試験	80	①定期試験 80% ②小テスト 10% ③出席点 10%
	レポート	0	
	小テスト	10	
	提出物	0	
	その他	10	

履修上の 留意事項	①必要に応じて補助的教材としてプリントを配布したり、プロジェクターを使い示説を行う。 ②理解しやすいようにできるだけ歯科臨床に即した講義を行う。 ③適宜小プリントなどにより課題を与え、それに対する発表や討議を行う。 ④病理学を理解する上で、解剖や組織学・発生学などの基本的な知識が必要となるので、それらの科目も充分に復習することが望ましい。

履修主題・履修内容	回	履修主題	履修内容
	1	病理学序論、病因論	病理学の概要と病気の原因について
	2	遺伝性疾患ならびに奇形	遺伝、遺伝性疾患、奇形について
	3	代謝障害	変性、委縮、壊死について
	4	増殖と修復	肥大、再生、創傷治癒について
	5	循環障害	循環系の概要と循環治癒について
	6	炎症と免疫	炎症と免疫について
	7	腫瘍	腫瘍について
	8	口腔病理、歯の発育異常、口腔領域の奇形	歯の発育異常、口腔の奇形について
	9	歯の機械的および化学的損傷、歯の沈着物	歯の機械的および化学的損傷、歯の沈着物について
	10	う蝕	う蝕について
	11	歯髄の病変	歯髄の病変について
	12	歯周組織の病変	歯周組織の病変について
	13	口腔粘膜の病変、エプーリス	口腔粘膜の病変、エプーリスについて
	14	口腔領域の嚢胞	口腔粘膜の嚢胞について
	15	口腔領域の腫瘍	口腔粘膜の腫瘍について

授業科目	病理学	担当教員 実務経験		
対象年次・学期	1 年・前期	担当教員 実務経験		
授業形態				
		担当教員 実務経験		
		担当教員 実務経験		
		担当教員 実務経験		
		担当教員 実務経験		
		担当教員 実務経験		
		担当教員 実務経験		
		担当教員 実務経験		
		担当教員 実務経験		
		担当教員 実務経験		

授業科目	臨床検査法	担当教員	松本　崇嗣		
対象年次・学期	1 年・後期	必修・選択区分	必修	単位数	
授業形態		授業回数	15 回	時間数	30 時間
授業目的	診療前・中・後の患者の身体的状態を把握する。検査方法や検査値が示す身体的状態を正しく理解する。				
到達目標	バイタルサイン(体温・脈圧・血圧)測定ができる。血液の検査方法と検査値を正しく述べることができる。口腔領域に関する検査を正しく実施できる。				
テキスト・参考図書等	・最新歯科衛生士教本 「臨床検査」(医歯薬出版)				

評価方法・評価基準

評価方法	評価割合(%)	評価基準
試験	80	①定期試験 80% ②レポート 10% ③実習態度 10%
レポート	10	
小テスト	0	
提出物	0	
その他	10	

履修上の留意事項

①講義と実習を組み合わせ、知識と実践に理解を深める。　②実習の留意点はよく聞き、理解してから慎重に操作する。
③実習では、爪、頭髪、アクセサリなどの身だしなみを整える。　④レポートの提出期限は守る。

履修主題・履修内容

回	履修主題	履修内容
1	1 章　臨床検査とは　(橋本)	どんな検査があるか。検査成績の読み方など
2	2 章　生体検査 1　(橋本)	体温検査、脈拍検査、血圧検査
3	2 章　生体検査 2　(山内)	心機能検査、肺機能検査、筋電図検査、脳波検査、血中酸素濃度検査
4	3 章　検体検査 1　(橋本)	血液検査
5	3 章　検体検査 2　(橋本)	生化学検査
6	3 章　検体検査 3　(橋本)	免疫・血清検査
7	3 章　検体検査 4　(橋本)	血液型検査、その他の検査
8	3 章　検体検査 5　(橋本)	感染症(細菌)検査
9	3 章　検体検査 6　(橋本)	病理検査
10	4 章　口腔領域の臨床検査 1　(橋本)	口臭検査、味覚検査、歯科金属アレルギーの検査
11	4 章　口腔領域の臨床検査 2　(橋本)	舌の検査、口腔粘膜の検査
12	4 章　口腔領域の臨床検査 3　(橋本)	唾液検査
13	4 章　口腔領域の臨床検査 4　(橋本)	歯周組織の検査、歯の検査、根管内細菌培養検査
14	5 章　摂食・嚥下関連検査(橋本)	摂食・嚥下障害のスクリーニングテスト、摂食・嚥下障害の検査法
15	総括　(橋本)	主な疾患・病態別検査値のとらえ方

授業科目	臨床検査法	担当教員 実務経験		
対象年次・学期	1 年・後期	担当教員 実務経験		
授業形態				
		担当教員 実務経験		
		担当教員 実務経験		
		担当教員 実務経験		
		担当教員 実務経験		
		担当教員 実務経験		
		担当教員 実務経験		
		担当教員 実務経験		
		担当教員 実務経験		
		担当教員 実務経験		
		担当教員 実務経験		

授業科目	小児歯科学	担当教員	吉原　俊博		
対象年次・学期	1 年・後期	必修・選択区分	必修	単位数	
授業形態		授業回数	15 回	時間数	30 時間
授業目的	小児に対する歯科診療を理解し、適切な診療補助を行うための知識を習得する。				
到達目標	小児に全身および口腔の発達について述べることができる。小児に対する各種歯科、特に成人との相違について区別できる。小児に対する齲蝕予防法について述べることができる。				
テキスト・参考図書等	・最新歯科衛生士教本「小児歯科学」(医歯薬出版)				

評価方法・評価基準	評価方法	評価割合(%)	評価基準
	試験	80	①定期試験 80% ②出席点・レポート点 20%
	レポート	20	
	小テスト	0	
	提出物	0	
	その他	0	

履修上の留意事項	①教科書を中心とした講義を行い、随時演習や小テストを行う。講義中の質問や発言は歓迎。積極的に授業に参加すること。 ②大人としてのマナーを持った授業態度を望む。

履修主題・履修内容	回	履修主題	履修内容
	1	Ⅰ－1 章　小児歯科学概論、2 章　心身の発育(吉原)	小児歯科学とは、発育の概念、評価、精神の発達
	2	Ⅰ－3 章　小児の生理的特徴、4 章　顔面頭蓋の発育(吉原)	生理的特徴、顎顔面頭蓋の発育と評価法
	3	Ⅰ－5 章　歯の発育とその異常　(吉原)	歯の形成障害、萌出異常
	4	Ⅰ－6 章　歯列・咬合の発育と異常　(吉原)	発育段階・不正咬合
	5	Ⅰ－7 章　小児の歯科疾患(吉原)	小児にみられるう蝕、歯周疾患、口腔軟組織の異常と疾患
	6	Ⅱ－1 章、小児の特徴と歯科的問題点　(吉原)	低年齢児、学童期、思春期の特徴と留意点
	7	Ⅱ－2 章、小児歯科における診療体系 1　(吉原)	小児歯科診療の特徴、原則、診察、検査、診断、麻酔法、歯冠修復
	8	Ⅱ－2 章、小児歯科における診療体系 2　(吉原)	歯内療法、外科的処置、外傷の処置、咬合誘導、フッ化ジアンミン銀塗布
	9	Ⅱ－3 章、小児歯科における患者との対処法　(西里)	歯科治療の時の対応法、行動療法、抑制的対応法、鎮静・減痛下の対応法
	10	障害児の歯科治療　(西里)	主な障害とその全身的・歯科的特徴、障害児への対応
	11	診察・検査時の業務　(西里)	診察・検査と必要な器材の準備、医療面接
	12	う蝕予防　(西里)	プラークコントロール・フッ化物応用、小窩裂溝填塞・食生活指導
	13	小児歯科診療における診療補助　(西里)	保存修復・歯内療法・外科的処置、咬合誘導
	14	小児の口腔保健管理　(西里)	方法、口腔保健管理に必要な検査と指導、患児・保護者への説明と指導
	15	歯科診療室と器材の管理(西里)	受付・待合室・歯科診療室・器材の管理

授業科目	小児歯科学	担当教員 実務経験		
対象年次・学期	1 年・後期	担当教員 実務経験		
授業形態				
		担当教員 実務経験		
		担当教員 実務経験		
		担当教員 実務経験		
		担当教員 実務経験		
		担当教員 実務経験		
		担当教員 実務経験		
		担当教員 実務経験		
		担当教員 実務経験		
		担当教員 実務経験		
		担当教員 実務経験		

授業科目	微生物学	担当教員	長谷部　晃		
対象年次・学期	1 年・後期	必修・選択区分	必修	単位数	
授業形態		授業回数	15 回	時間数	30 時間
授業目的	微生物はどのような特徴をもった生物であるかを理解し、微生物とヒトあるいは他の動物との関わり合い、微生物が病気を起こすメカニズム、微生物によって起こる主な病気の発症メカニズムならびに治療法と予防法について学ぶ。				
到達目標	口腔の二大疾患である歯周疾患とう蝕の病因論を細菌学的に述べることができる。 微生物の侵入に対して生体はどのような防御反応をするのかについても述べることができる。				
テキスト・参考図書等	・最新歯科衛生士教本「疾病の成り立ち及び回復過程の促進 2　微生物学」　（医歯薬出版）　・プリント				

評価方法・評価基準	評価方法	評価割合(%)	評価基準
	試験	100	・定期試験 100％※2 回実施
	レポート	0	
	小テスト	0	
	提出物	0	
	その他	0	

履修上の留意事項	①教科書に準拠して講義を行うが、その方略としてコンピューターとプロジェクターを使用、写真やアミメーションを駆使してわかり易い講義を行う。 ②必ず講義の前に前回講義の復習の小テストを行い、その場で学生に発表してもらい、その発表に対して解説したり、さらに質問したりする。

履修主題・履修内容	回	履修主題	履修内容
	1	微生物学の発達と歴史 (長谷部)	分類学的位置、真核生物と原核生物、コッホ、パスツール、北里柴三郎、白鳥フラスコを用いた自然発生説の否定、コッホの原則
	2	微生物の一般的性状　（長谷部)	細菌の微細構造（細胞壁、鞭毛、線毛等）と機能、グラム陰性菌と陽性菌の構造的な相違、増殖曲線、世代時間、偏性嫌気性、通性嫌気性、好気性、リケッチア、クラミジア、ウイルスの性状
	3	微生物の培養法と観察法 (長谷部)	液体培地、寒天培地、選択培地、好気培養、嫌気培養、光学顕微鏡、位相差顕微鏡、電子顕微鏡
	4	感染と発症　（長谷部)	付着因子－線毛、リポタイコ酸、毒素－内毒素、白血球抵抗因子－莢膜、内因感染、外因感染、日和見感染
	5	自然免疫機構　（長谷部)	皮膚、粘膜、常在菌叢、補体ならびに、補体の活性化、食細胞、微生物の認識－Toll 様受容体（TLR)、NK 細胞、炎症性サイトカイン
	6	免疫の概念と免疫担当細胞 (長谷部)	T リンパ球、B リンパ球、抗原、抗体、抗原提示細胞、抗体の種類の生体防御における意義
	7	獲得免疫機構と粘膜免疫 (長谷部)	抗原提示、ヘルパーT 細胞（Th1、Th2)、細胞傷害性 T 細胞、IgG、IgM、IgA、IgD、IgE、分泌型 IgA、M 細胞
	8	ワクチン、アレルギーと自己免疫疾患　（長谷部)	Ⅰ～Ⅳ型アレルギー、IgE、肥満細胞、生ワクチン、不活化ワクチン、ベーチェット病、シェーグレン症候群
	9	細菌学各論　（長谷部)	グラム陽性球菌、グラム陰性球菌、ブドウ球菌、連鎖球菌、ナイセリア、ベイヨネラ
	10	化学療法、消毒と滅菌 (長谷部)	滅菌と消毒の違い、β－ラクタム系抗生物質、マクロライド系抗生物質、テトラサイクリン系物質、スタンダード・プレコーション、MRSA、薬剤耐性、菌交代症
	11	口腔微生物　（長谷部)	唾液と歯肉溝滲出液、リゾチーム、ムチン、口腔常在菌叢デンタルプラーク（バイオフィルム）の形成機序、歯石の形成機序
	12	う蝕症　（長谷部)	う蝕は細菌感染症である、う蝕発症に関わる要因、mutans レンサ球菌のう蝕原性、歯髄炎、歯根尖感染性疾患、カイスの輪
	13	歯周疾患、口腔細菌による全身疾患ならびにその他の感染症　（長谷部)	歯肉炎と歯周炎、急性壊死製潰瘍性歯肉炎、慢性歯周炎、リスク因子（喫煙、加齢)、歯周病原細菌と病原因、red complex 誤嚥性肺炎、歯性病巣感染、口腔のその他の感染症、放線菌症、口腔カンジダ症、ヘルペス、肝炎ウイル

			ス、エイズ
	14	口腔細菌学実習 1　（山内）	培地作成と歯垢・唾液の接種
	15	口腔細菌学実習 2　（山内）	唾液・歯垢細菌の観察－グラム染色

授業科目	微生物学	担当教員 実務経験		
対象年次・学期	1 年・後期	担当教員 実務経験		
授業形態				
		担当教員 実務経験		
		担当教員 実務経験		
		担当教員 実務経験		
		担当教員 実務経験		
		担当教員 実務経験		
		担当教員 実務経験		
		担当教員 実務経験		
		担当教員 実務経験		
		担当教員 実務経験		
		担当教員 実務経験		

授業科目	口腔外科・歯科麻酔学	担当教員	宮崎　晃亘		
対象年次・学期	1 年・後期	必修・選択区分	必修	単位数	
授業形態		授業回数	15 回	時間数	30 時間
授業目的	口腔外科疾患の臨床を理解し、歯科衛生士に求められる基本的な診療介助と患者看護能力を身につける。				
到達目標	バイタルサインと異常の有無を予測できる。コミュニケーションスキル及び患者観察の重要性を説明できる。口腔外科外来手術に用いられる基本的な器具・機械の名称を記憶する。滅菌・消毒の意義を述べることができる。				
テキスト・参考図書等	・最新歯科衛生士教本 「顎・口腔粘膜疾患　口腔外科・歯科麻酔」(医歯薬出版) ・最新歯科衛生士教本「歯科機器」(医歯薬出版)				

評価方法・評価基準	評価方法	評価割合(%)	評価基準
	試験	80	①定期試験 80% ②レポート 10% ③出席点 10%
	レポート	10	
	小テスト	0	
	提出物	0	
	その他	10	

履修上の留意事項	①教科書「口腔外科・歯科麻酔」を通読する。一般には馴染みのない専門用語と漢字が繰り返し出てくるので、声を出して読むことで「慣れる」こと。また、口腔外科疾患については、各章に画像ファイル(パワーポイント)を作製し閲覧を行う。なお、個人情報保護法に触れる恐れがあるため、供覧する病態写真をプリントして配布することはしない。授業内に把握すること。　②口腔外科疾患の授業ではできるだけ多くの症例(病態)写真を供覧する。

履修主題・履修内容	回	履修主題	履修内容
	1	Ⅰ編　口腔外科の概要(宮崎)	口腔病変と全身疾患との関わり、歯科衛生士の役割
	2	顎・口腔領域の異常　(宮崎)	歯の異常、軟組織の異常、唇裂・口蓋裂・顎
	3	顎・口腔領域の損傷、機能障害　(宮崎)	損傷、外傷、骨折、顎関節
	4	口腔粘膜の病変　(宮崎)	水疱形成、潰瘍、白斑、色素沈着、口腔乾燥症など
	5	顎・口腔領域の化膿性炎症、嚢胞性疾患　(宮崎)	歯周組織、顎骨及び周囲炎、歯原性・粘液嚢胞の病態を把握する。
	6	顎・口腔領域の腫瘍、唾液腺疾患　(宮崎)	歯原性・非歯原性腫瘍の病態の把握、唾液腺疾患、唾石、唾液腺腫瘍
	7	神経疾患、口腔外科診療の実際　(宮崎)	神経痛、麻痺など、口腔外科小手術、止血処置、縫合処置、救急蘇生法
	8	Ⅱ編　歯科治療と歯科麻酔(宮崎)	局所麻酔・精神鎮静法、全身麻酔
	9	Ⅲ編　問診、検査　(松岡)	問診、臨床検査、局所麻酔、精神鎮静法時の業務
	10	抜歯術①　(松岡)	局所麻酔器材、普通抜歯の術式と使用器材の名称・使用目的
	11	創傷処置・抜歯術②　(松岡)	難抜歯の術式と使用器材の名称・使用目的、縫合
	12	口腔外科小手術　(松岡)	歯槽整形・骨瘤除去、替刃メスの取扱い
	13	口腔出血に対する処置(松岡)	切開・排膿の手術、嚢胞摘出手術
	14	口腔出血に対する処置法(松岡)	手術の流れと介助法、歯肉包帯剤の取扱い
	15	歯科衛生士行う管理　(松岡)	術前・術後の管理、消毒・滅菌

授業科目	口腔外科・歯科麻酔学	担当教員 実務経験		
対象年次・学期	1 年・後期	担当教員 実務経験		
授業形態				
		担当教員 実務経験		
		担当教員 実務経験		
		担当教員 実務経験		
		担当教員 実務経験		
		担当教員 実務経験		
		担当教員 実務経験		
		担当教員 実務経験		
		担当教員 実務経験		
		担当教員 実務経験		
		担当教員 実務経験		